資料２

島原地域広域市町村圏組合
基礎調査（各種アンケート調査）結果
概要版

令和８年８月

島原地域広域市町村圏組合

目次

Ⅰ　アンケート調査の概要 1

１．調査の目的 1

２．回収状況 1

Ⅱ　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の概要 2

１．調査結果（一部抜粋） 2

（１）家族構成 2

（２）日常生活での介護・介助の必要性 3

（３）地域活動への参加者としての参加意向 4

（４）地域活動への企画・運営としての参加意向 5

（５）現在治療中または後遺症のある病気 6

（６）認知症に関する相談窓口を知っているか 7

（７）医療や治療が必要でも住み慣れた地域で暮らせると思うか 8

（８）整っていると思うサービス 9

２．調査結果の要旨 10

Ⅲ　在宅介護実態調査結果の概要 11

１．調査結果（一部抜粋） 11

（１）家族等の介護の頻度 11

（２）介護者が行っている介護 12

（３）保険外の支援・サービスの必要性 14

（４）施設等の検討状況 16

（５）介護者の勤務形態 17

（６）効果的な勤め先からの支援 18

（７）介護者が不安に感じる介護 19

２．調査結果の要旨 20

Ⅳ　居所変更実態調査結果の概要 21

１．調査結果（一部抜粋） 21

（１）過去１年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合 21

（２）過去１年間のグループホームの入所及び退所の流れ 22

（３）過去１年間の介護老人保健施設の入所及び退所の流れ 22

（４）過去１年間の介護医療院の入所及び退所の流れ 23

（５）過去１年間の特別養護老人ホームの入所及び退所の流れ 23

（６）過去１年間の地域密着型特別養護老人ホームの入所及び退所の流れ..... 24
（７）居所変更した理由 24
（８）受け入れ可能な医療処置の種類 25

２．調査結果の要旨 26

Ⅴ　在宅生活改善調査結果の概要 27

１．調査結果（一部抜粋） 27
（１）過去１年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数..... 27
（２）過去１年間の居所変更と自宅等における死亡の割合 28
（３）過去１年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度別の内訳..... 28
（４）現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者 29
（５）現在、家族等介護者の負担になっている介護 29
（６）「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更..... 30

２．調査結果の要旨 31

Ⅵ　介護人材実態調査結果の概要 32

１．調査結果（一部抜粋） 32
（１）サービス系統別の資格保有の状況 32
（２）介護職員数の変化と前の職場が介護事業所である職員の前の職場の場所..... 32
（３）過去１年間の介護職員の職場の変化 33
（４）訪問介護のサービス提供時間の内容別の内訳（介護給付） 34
（５）訪問介護のサービス提供時間の内容別の内訳（予防給付・総合事業）..... 34

２．調査結果の要旨 35

Ⅰ　アンケート調査の概要

１．調査の目的

調査	目的
①　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	保険者が、一般高齢者、介護予防・日常生活支援総合事業対象者、要支援者を対象に、日常生活圏域ごとに、地域の抱える課題の特定（地域診断）に資することなどを目的とするもの。
②　在宅介護実態調査	「家族等介護者の就労継続」や「要介護者の適切な在宅生活の継続」などについての、客観的な状態把握とその達成に向けた施策検討を行うことを目的とするもの。
③　居所変更実態調査	過去１年間で施設･居住系サービスから居所を変更した方の人数や、その理由等を把握することを目的とするもの。
④　在宅生活改善調査	現在自宅等にお住まいの方で、「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」の、人数、生活の維持が難しくなっている理由、生活の改善のために必要な支援・サービス等を把握することを目的とするもの。
⑤　介護人材実態調査	介護人材の性別・年齢構成、資格保有状況、過去１年間の採用・離職の状況、訪問介護サービスにおけるサービス提供の実態などを把握することを目的とするもの。

２．回収状況

調査	調査対象	配布数	回収数	回収率
①　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	島原市、雲仙市及び南島原市在住の要介護認定を受けていない 65 歳以上の方	3,150 件	2,136 件	67.8%
②　在宅介護実態調査	在宅で生活している要支援・要介護者のうち「要支援・要介護認定の更新申請・区分変更申請」をしている人であって、令和７年９月 26 日から令和７年 12 月 28 日までの間に認定調査の対象となる方	618 件	618 件	100.0%
③　居所変更実態調査	管内施設・居住系サービス事業所	107 事業所	76 事業所	71.0%
④　在宅生活改善調査	管内事業所のケアマネジャー	49 事業所	47 事業所	95.9%
⑤　介護人材実態調査	管内の施設・居住系サービス、通所系サービス、訪問系サービス、小規模多機能型居宅介護、その他の介護サービス事業所	242 事業所	177 事業所	73.1%

Ⅱ　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の概要

１．調査結果（一部抜粋）

（１）家族構成

問１（１）家族構成をお教えください。

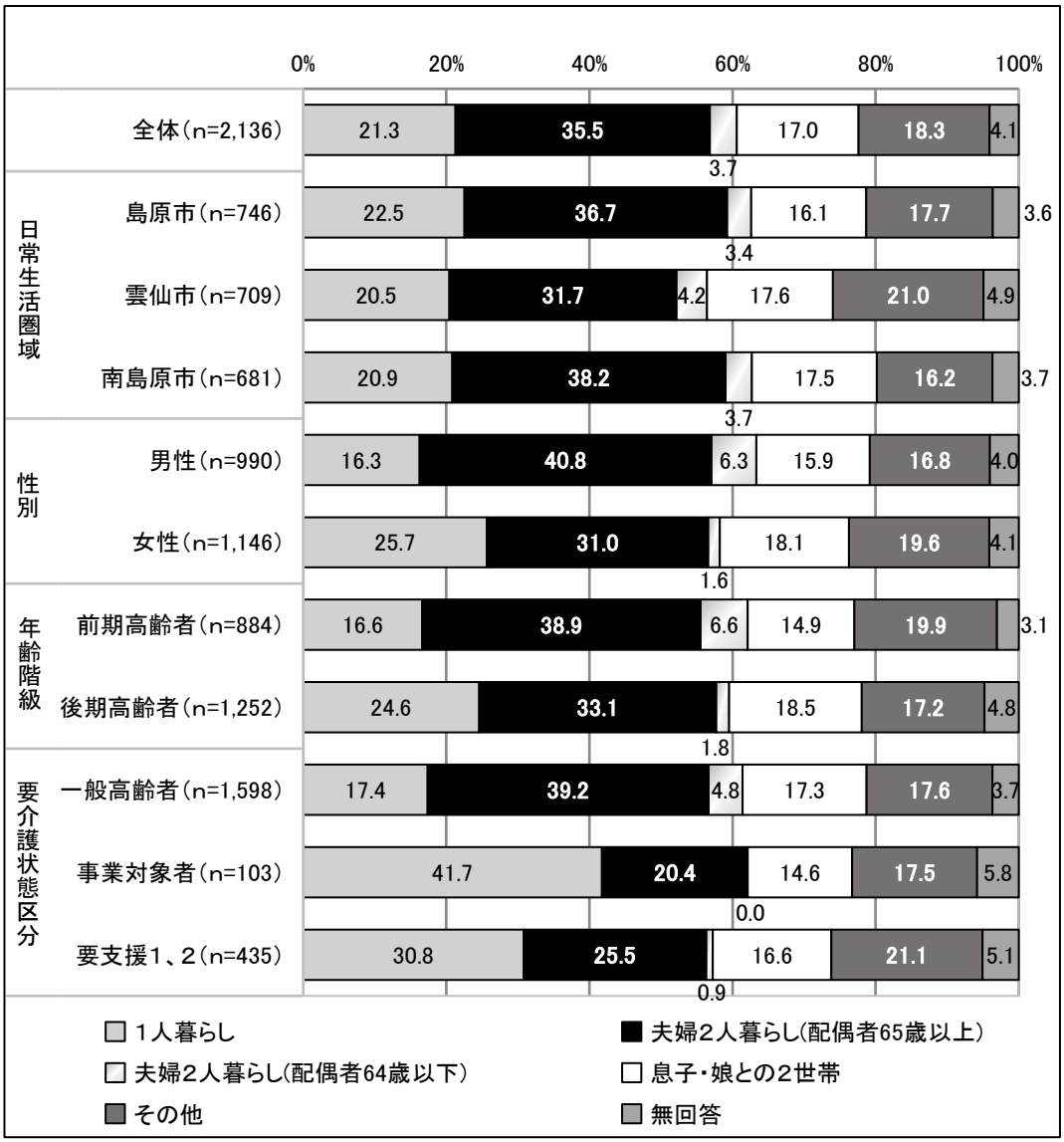
▼

結果概要

「夫婦２人暮らし(配偶者 65 歳以上)」(35.5%）が最も多く、「１人暮らし」(21.3%）がこれに続きます。

「１人暮らし」、「夫婦２人暮らし」が、全体の 60.5%を占めており、高齢者のみで構成される世帯及び高齢者を含む夫婦２人暮らし世帯が多くなっています。

■家族構成（全体・属性別）■



（2）日常生活での介護・介助の必要性

問１（２）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

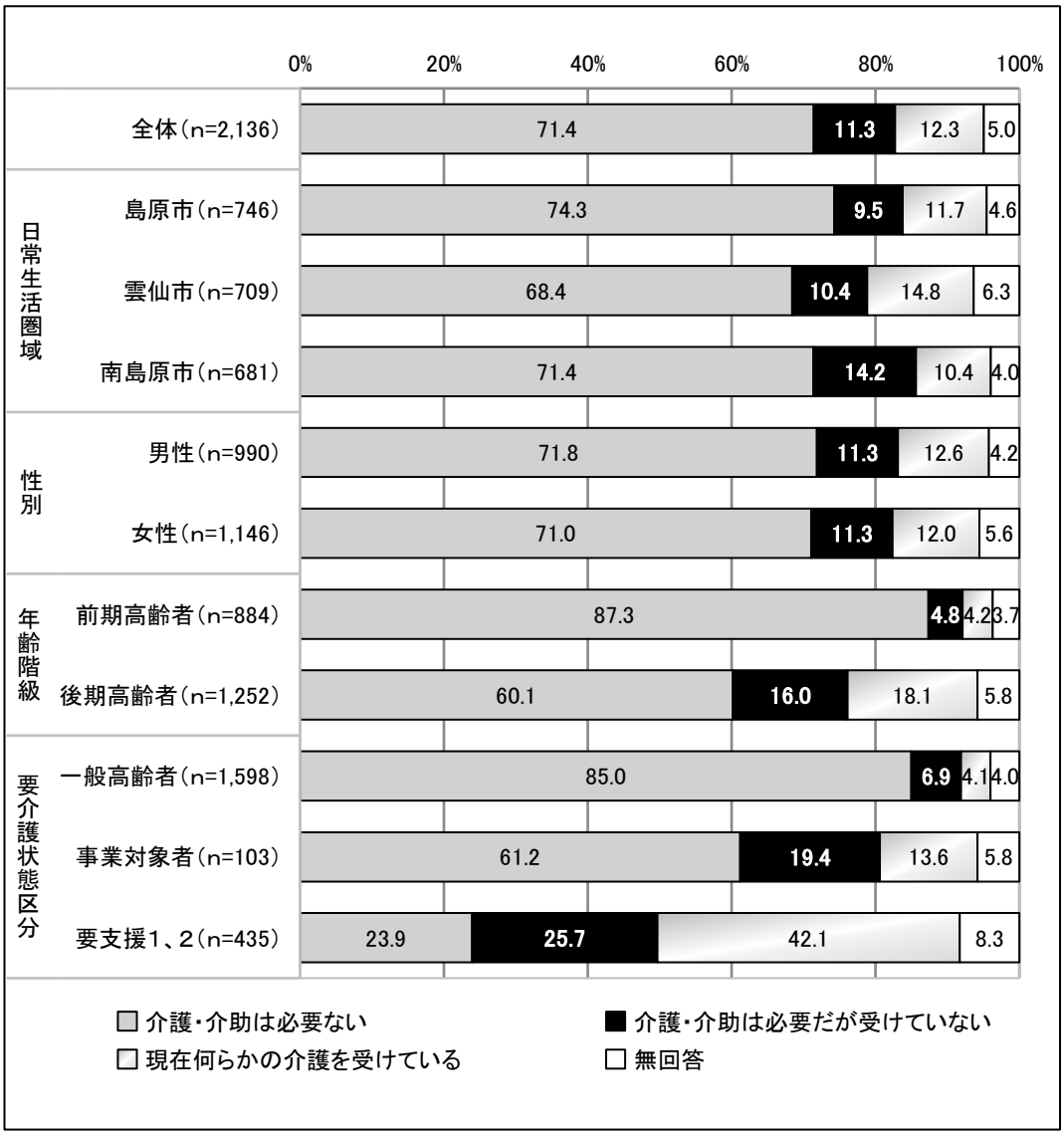
▼

結果概要

日常生活において「介護・介助は必要ない」と回答した人は 71.4%となっており、多くの高齢者が自立した生活を送っています。

一方で、要支援１、２では、「介護・介助は必要だが受けていない」が 25.7%となっており、必要な介護・介助を受けずに生活している方も一定数いることがわかります。

■日常生活での介護・介助の必要性（全体・属性別）■



（3）地域活動への参加者としての参加意向

問５（２）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

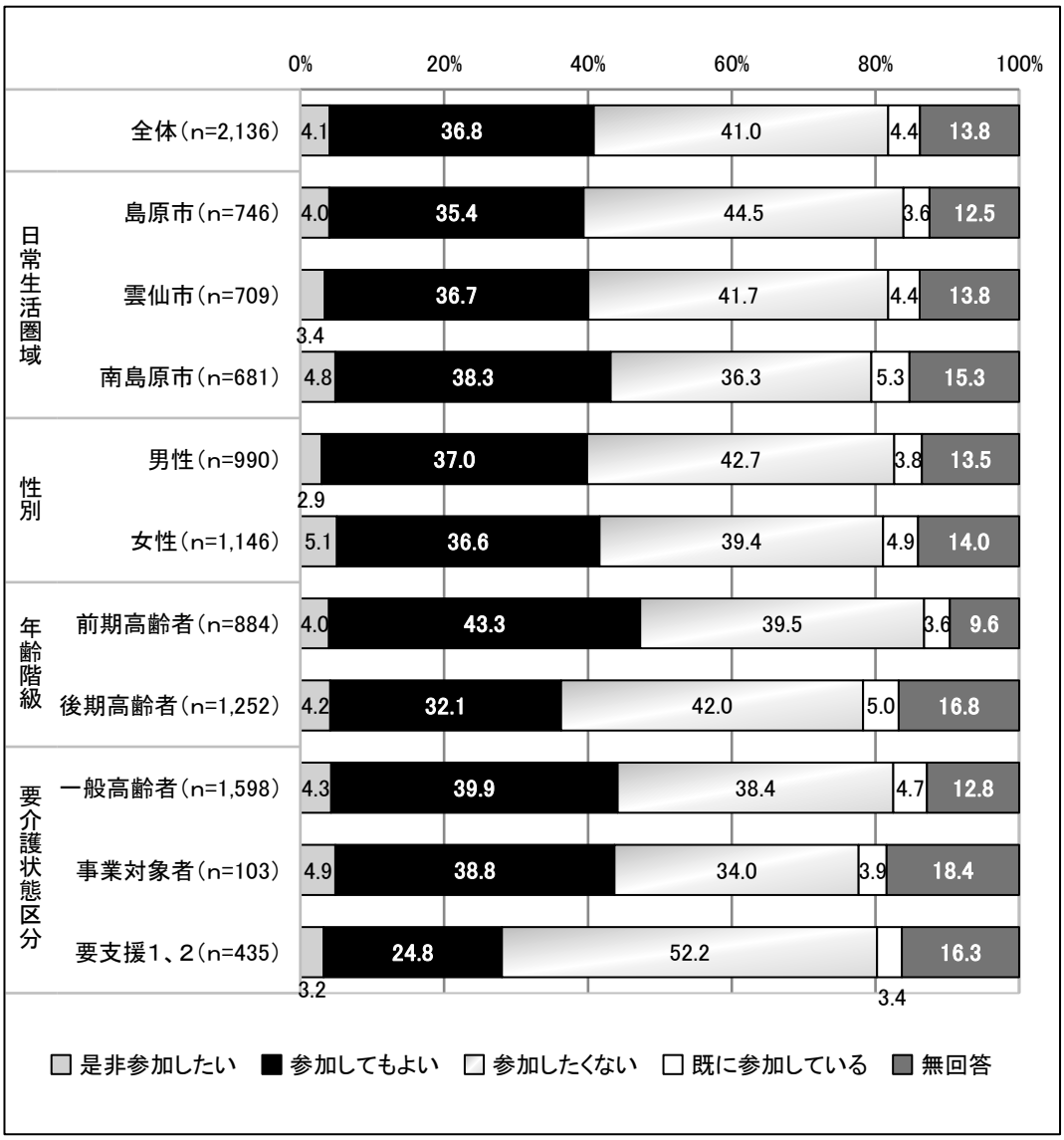
▼

結果概要

「是非参加したい」（4.1%）、「参加してもよい」（36.8%）、「既に参加している」（4.4%）を合わせた“参加意向あり”は、45.3%となり、「参加したくない」（41.0%）をわずかに上回っています。

“参加意向あり”の割合を日常生活圏域別でみると、南島原市の参加意向が他圏域と比べてやや高くなっています（48.4%）。

■地域活動への参加者としての参加意向（全体・属性別）■



（4）地域活動への企画・運営としての参加意向

問５（３）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

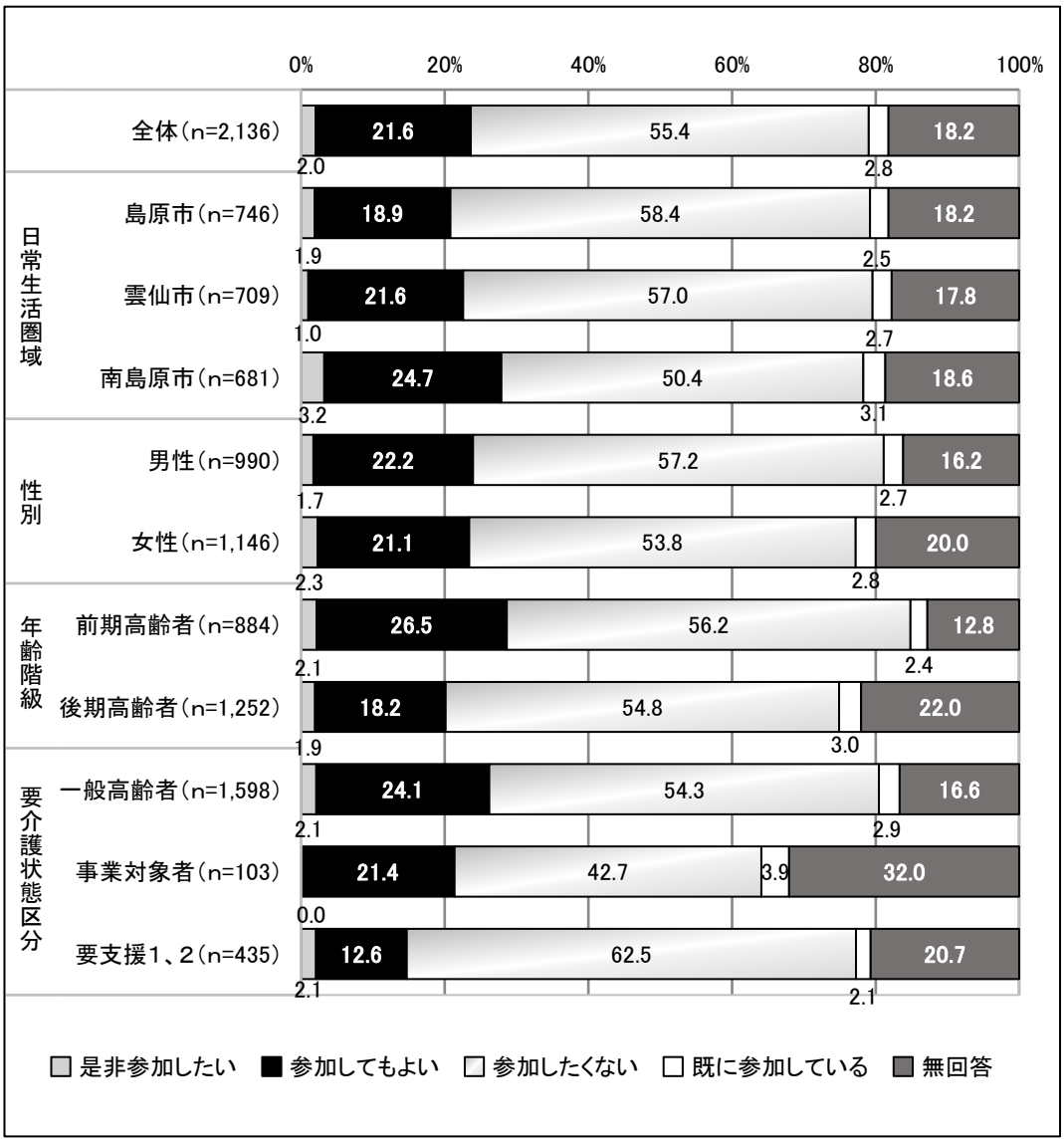
▼

結果概要

「是非参加したい」（2.0%）、「参加してもよい」（21.6%）、「既に参加している」（2.8%）を合わせた“参加意向あり”は、26.4%となり、「参加したくない」（55.4%）を大きく下回っています。

“参加意向あり”の割合を日常生活圏域別でみると、南島原市の参加意向が他圏域と比べて高くなっています（31.0%）。

■地域活動への企画・運営としての参加意向（全体・属性別）■



（５）現在治療中または後遺症のある病気

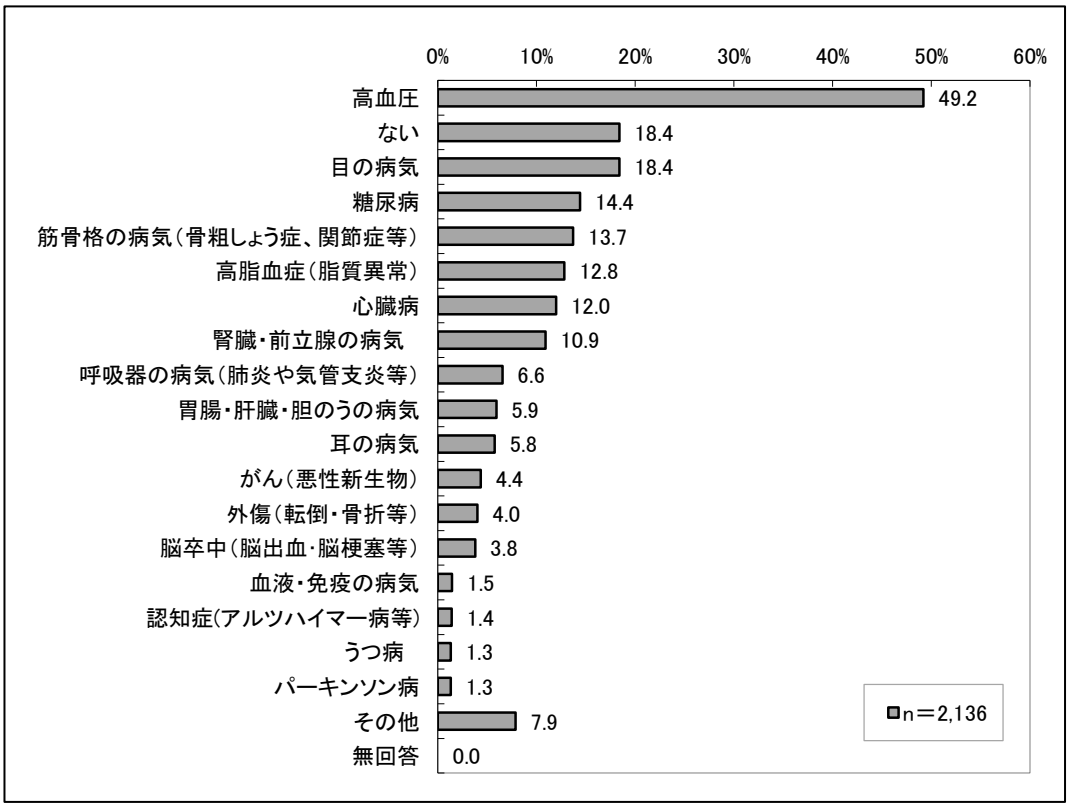
問８（７）現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。【複数回答】

▼

結果概要

「高血圧」（49.2%）が他を大きく引き離して最も高い割合を占めています。
さらに、「目の病気」（18.4%）、「糖尿病」（14.4%）、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」（13.7%）、「高脂血症（脂質異常）」（12.8%）、「心臓病」（12.0%）等がこれに続きます。
「ない」は 18.4%となっています。

■現在治療中または後遺症のある病気（全体）■



（6）認知症に関する相談窓口を知っているか

問９（２）認知症に関する相談窓口を知っていますか。

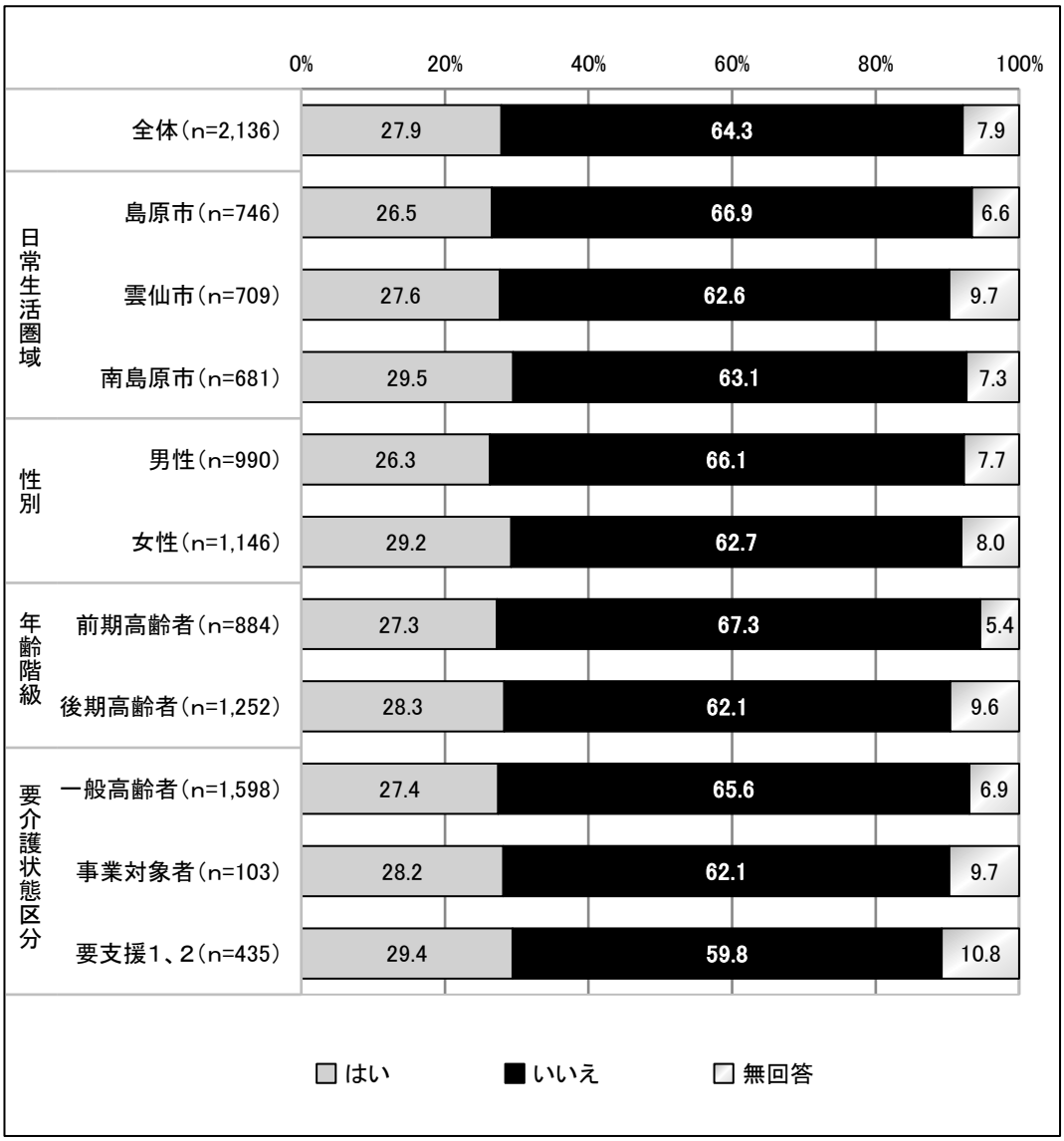
▼

結果概要

「いいえ」が 64.3%と大きな割合を占め、認知症に関する相談窓口の認知が十分に広がっていません。

「はい」の割合を日常生活圏域別でみると、南島原市（29.5%）が他の圏域よりもやや高くなっています。

■認知症に関する相談窓口を知っているか（全体・属性別）■



（7）医療や治療が必要でも住み慣れた地域で暮らせると思うか

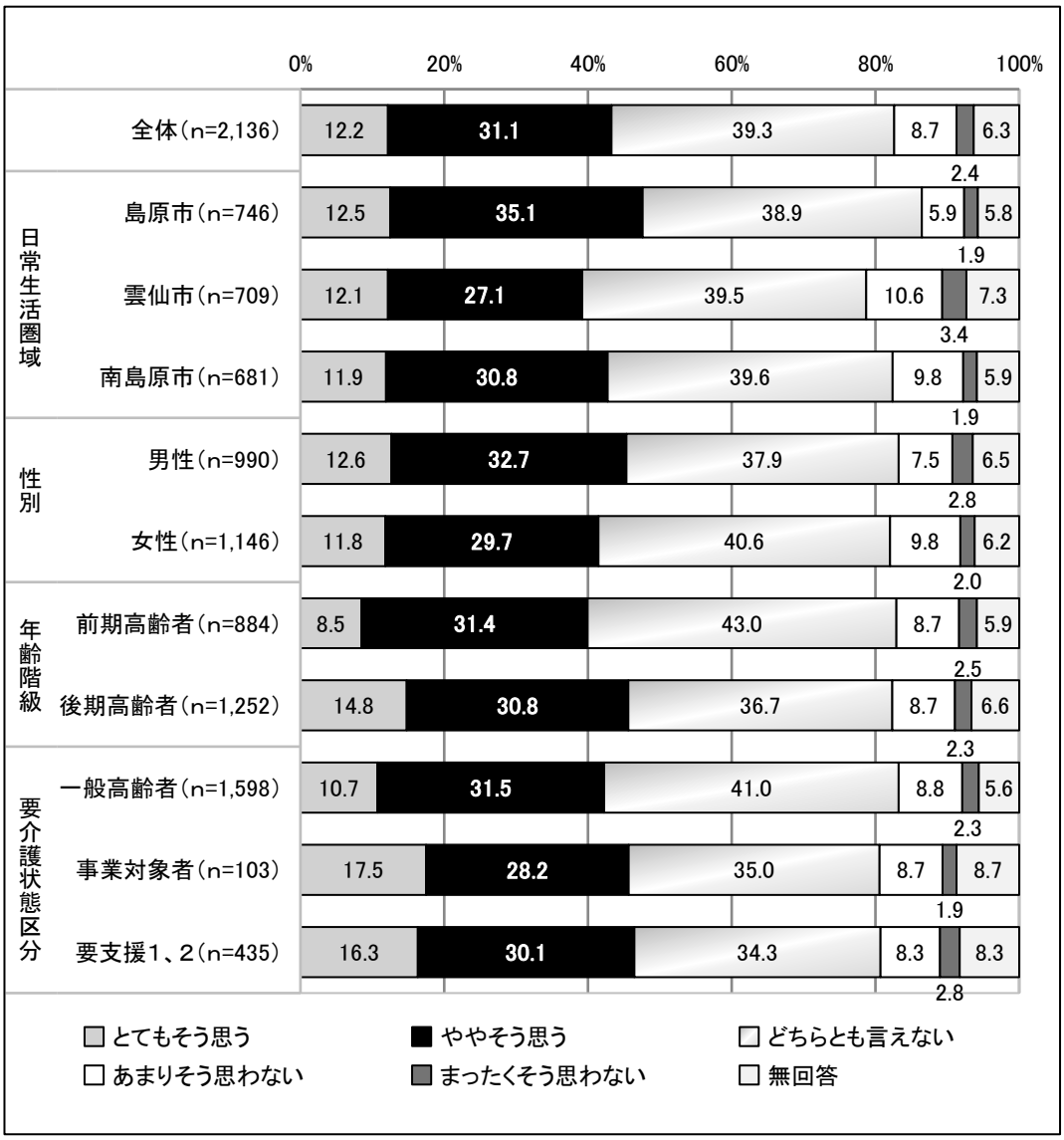
問 10（1）医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくことができると思いますか。

▼

結果概要

「どちらとも言えない」が最も多く、39.3%を占めています。
「とてもそう思う」（12.2%）と「ややそう思う」（31.1%）を足し合わせた“そう思う”は 43.3%となっており、「あまりそう思わない」（8.7%）と「まったくそう思わない」（2.4%）を足し合わせた“そう思わない”（11.1%）を大きく上回っています。
要介護状態区分でみると、事業対象者や要支援１、２において、一般高齢者よりも“そう思う”の割合が高くなっています。

■医療や治療が必要でも住み慣れた地域で暮らせると思うか（全体・属性別）■



（8）整っていると思うサービス

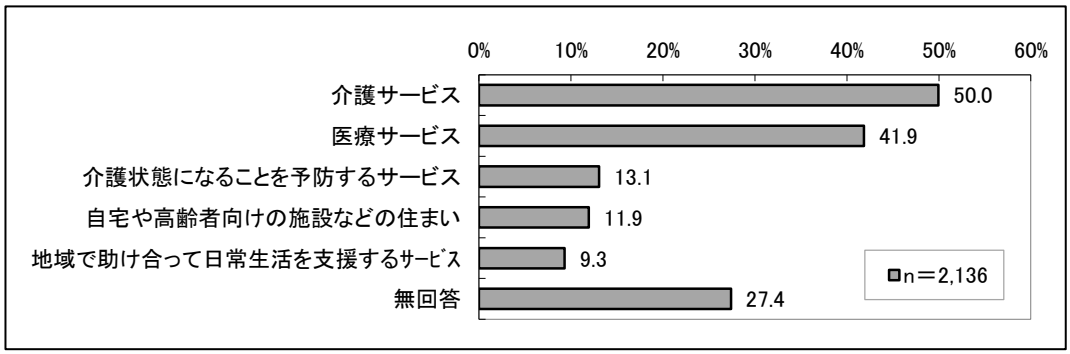
問 10（2）お住まいの地域において必要なときに利用できる支援やサービスが整っていると感じるものをお選びください。【複数回答】

▼

結果概要

「介護サービス」（50.0%）、「医療サービス」（41.9%）が高い割合を占めています。
日常生活圏域別にみると、島原市では、「医療サービス」が最も高くなっています。
また、南島原市では「介護サービス」（55.5%）や「介護状態になることを予防するサービス」（14.2%）が他の圏域よりもやや高くなっています。

■整っていると思うサービス（全体）■



■整っていると思うサービス（全体・属性別）■

		合計	問10(2) 整っていると思うサービス					
			医療サービス	介護サービス	介護状態になることを予防するサービス	自宅や高齢者向けの施設などの住まい	地域で助け合って日常生活を支援するｻｰﾋﾞｽ	無回答
全体		2,136	894	1,067	279	255	199	585
		100.0%	41.9%	50.0%	13.1%	11.9%	9.3%	27.4%
日常生活圏域	島原市	746	358	346	93	87	57	205
		100.0%	48.0%	46.4%	12.5%	11.7%	7.6%	27.5%
	雲仙市	709	285	343	89	79	88	198
		100.0%	40.2%	48.4%	12.6%	11.1%	12.4%	27.9%
	南島原市	681	251	378	97	89	54	182
		100.0%	36.9%	55.5%	14.2%	13.1%	7.9%	26.7%
性別	男性	990	463	484	85	109	63	261
		100.0%	46.8%	48.9%	8.6%	11.0%	6.4%	26.4%
	女性	1,146	431	583	194	146	136	324
		100.0%	37.6%	50.9%	16.9%	12.7%	11.9%	28.3%
年齢階級	前期高齢者	884	357	448	97	115	88	250
		100.0%	40.4%	50.7%	11.0%	13.0%	10.0%	28.3%
	後期高齢者	1,252	537	619	182	140	111	335
		100.0%	42.9%	49.4%	14.5%	11.2%	8.9%	26.8%
要介護状態区分	一般高齢者	1,598	652	751	192	189	145	473
		100.0%	40.8%	47.0%	12.0%	11.8%	9.1%	29.6%
	事業対象者	103	40	43	23	10	14	28
		100.0%	38.8%	41.7%	22.3%	9.7%	13.6%	27.2%
	要支援１、２	435	202	273	64	56	40	84
		100.0%	46.4%	62.8%	14.7%	12.9%	9.2%	19.3%

２．調査結果の要旨

（１）高齢者のみ世帯の増加が進行

調査結果では、「夫婦２人暮らし」が 35.5%、「１人暮らし」が 21.3%を占め、高齢者のみで生活する世帯及び高齢者を含む夫婦２人暮らし世帯が全体の 60.5%となっています。今後も独居高齢者や高齢夫婦世帯の増加が見込まれることから、見守りや生活支援体制のさらなる充実が求められます。

（２）介護予防と社会参加の推進が重要

日常生活で「介護・介助は必要ない」と回答した人は 71.4%で、多くの高齢者は自立した生活を維持しています。一方、要支援１・２では「介護・介助は必要だが受けていない」とする回答もみられ、支援ニーズの早期把握が課題となります。

また、地域活動への参加者としての参加意向は 45.3%と比較的高く、高齢者の社会参加への関心がうかがえます。しかし、企画・運営への参加意向は 26.4%にとどまっており、地域活動を支える担い手の確保・育成が必要です。

（３）健康づくりと認知症施策の充実が課題

治療中または後遺症のある病気では、「高血圧」が 49.2%と最も多く、糖尿病や心臓病、筋骨格系疾患などの割合も高くなっています。高齢者の健康寿命延伸に向けて、生活習慣病予防やフレイル予防の取組が引き続き重要です。

また、認知症に関する相談窓口を「知らない」と回答した人が 64.3%を占めており、相談機関に関する周知不足が課題となっています。認知症高齢者の増加が見込まれるなか、地域包括支援センター等の認知度向上や相談体制の充実が求められます。

（４）総括

医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けられると考える人は 43.3%で、「そう思わない」を大きく上回りました。一方、「どちらとも言えない」も 39.3%を占めており、将来への不安も垣間みえます。調査結果からは、高齢者のみ世帯の増加や認知症への備え、地域活動の担い手不足などの課題が明らかとなっており、今後は、介護予防と社会参加の促進、認知症施策の強化、生活支援体制の充実を一体的に進めることで、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域包括ケアシステムの深化が求められます。

Ⅲ　在宅介護実態調査結果の概要

１．調査結果（一部抜粋）

（１）家族等の介護の頻度

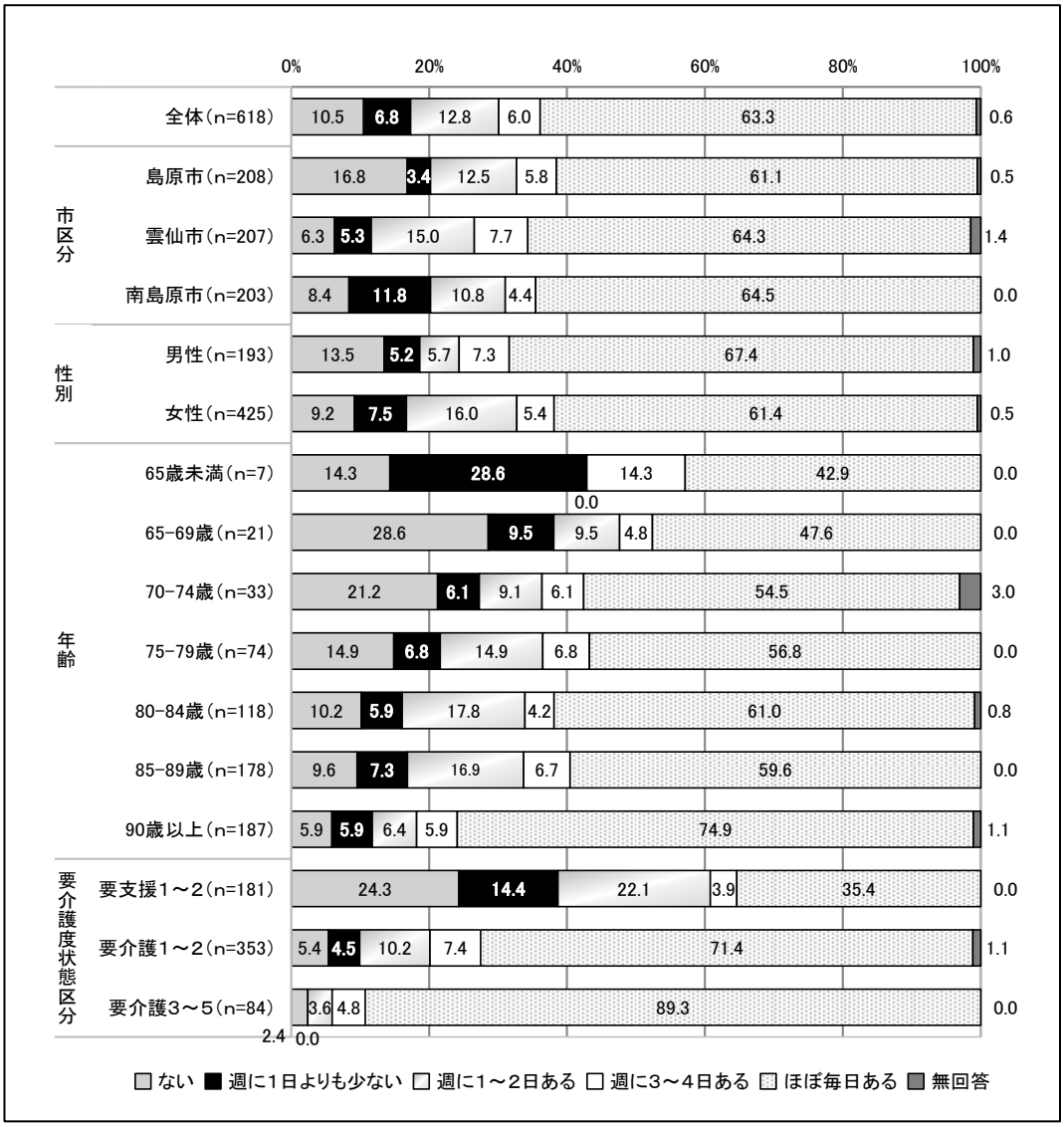
A問２　ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）。

▼

結果概要

「ほぼ毎日ある」が 63.3%で最も高い割合を占めています。
要介護３～５では、「ほぼ毎日ある」の割合が 89.3%まで高まり、９割近くが家族等による毎日の介護が必要となっています。

■家族等の介護の頻度（全体・属性別）■



（2）介護者が行っている介護

A問２で「２.」～「５.」を選択された方（家族や親族が介護している方）
A問６　現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。【複数回答】

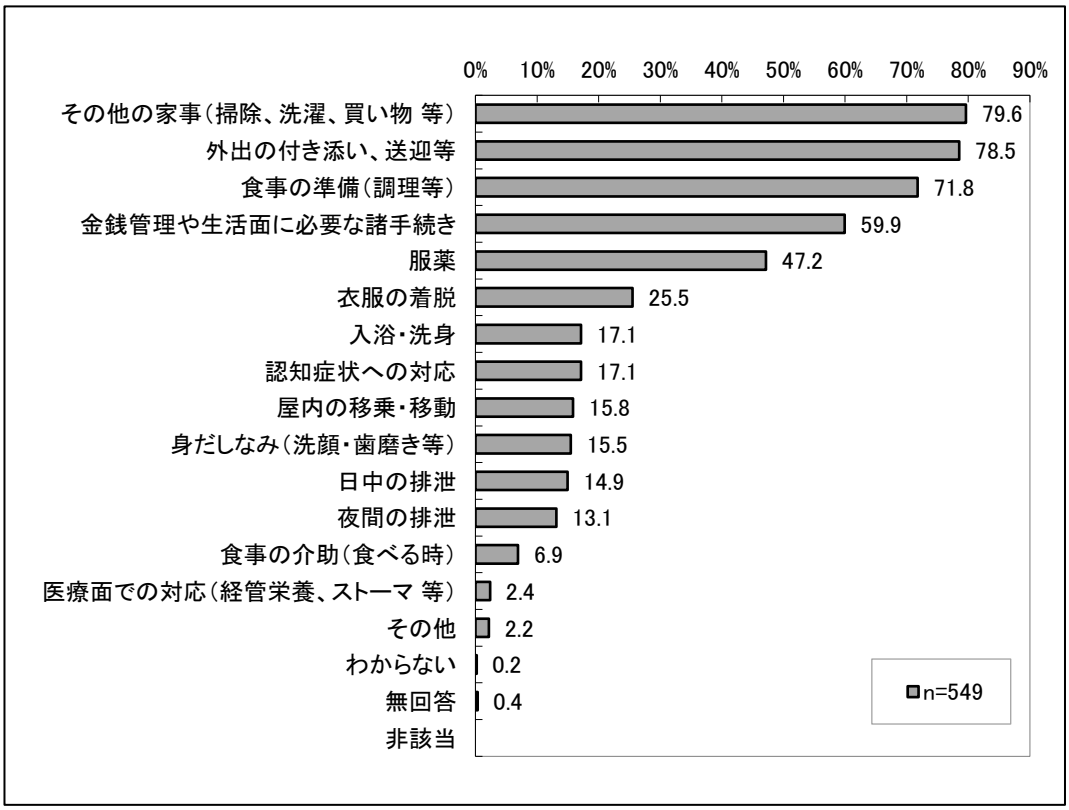
▼

結果概要

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」（79.6%）、「外出の付き添い、送迎等」（78.5%）、「食事の準備（調理等）」（71.8%）、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（59.9%）、「服薬」（47.2%）等が高い割合を占めています。。

島原市では、「外出の付き添い、送迎等」が 84.9%で第１位となっています。

■介護者が行っている介護（全体）■



■介護者が行っている介護（全体・属性別）■

		合計	問6_介護者が行っている介護										
			日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬	認知症状への対応	医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）
全体		549	82	72	38	94	85	140	87	431	259	94	13
		100.0%	14.9%	13.1%	6.9%	17.1%	15.5%	25.5%	15.8%	78.5%	47.2%	17.1%	2.4%
市区分	島原市	172	28	27	18	45	28	60	46	146	91	40	8
		100.0%	16.3%	15.7%	10.5%	26.2%	16.3%	34.9%	26.7%	84.9%	52.9%	23.3%	4.7%
	雲仙市	191	34	26	14	26	33	43	19	145	97	33	5
		100.0%	17.8%	13.6%	7.3%	13.6%	17.3%	22.5%	9.9%	75.9%	50.8%	17.3%	2.6%
	南島原市	186	20	19	6	23	24	37	22	140	71	21	0
		100.0%	10.8%	10.2%	3.2%	12.4%	12.9%	19.9%	11.8%	75.3%	38.2%	11.3%	0.0%
性別	男性	165	28	25	11	32	25	56	21	125	87	19	7
		100.0%	17.0%	15.2%	6.7%	19.4%	15.2%	33.9%	12.7%	75.8%	52.7%	11.5%	4.2%
	女性	384	54	47	27	62	60	84	66	306	172	75	6
		100.0%	14.1%	12.2%	7.0%	16.1%	15.6%	21.9%	17.2%	79.7%	44.8%	19.5%	1.6%
年齢	65歳未満	6	1	0	1	3	3	2	2	3	3	2	0
		100.0%	16.7%	0.0%	16.7%	50.0%	50.0%	33.3%	33.3%	50.0%	50.0%	33.3%	0.0%
	65-69歳	15	2	4	1	4	3	5	4	10	5	1	0
		100.0%	13.3%	26.7%	6.7%	26.7%	20.0%	33.3%	26.7%	66.7%	33.3%	6.7%	0.0%
	70-74歳	25	2	5	0	7	3	7	2	19	11	6	0
		100.0%	8.0%	20.0%	0.0%	28.0%	12.0%	28.0%	8.0%	76.0%	44.0%	24.0%	0.0%
	75-79歳	63	11	8	6	13	10	16	9	50	25	13	2
		100.0%	17.5%	12.7%	9.5%	20.6%	15.9%	25.4%	14.3%	79.4%	39.7%	20.6%	3.2%
	80-84歳	105	7	3	3	16	8	24	9	84	45	17	0
		100.0%	6.7%	2.9%	2.9%	15.2%	7.6%	22.9%	8.6%	80.0%	42.9%	16.2%	0.0%
	85-89歳	161	23	18	8	19	22	26	20	121	70	23	3
		100.0%	14.3%	11.2%	5.0%	11.8%	13.7%	16.1%	12.4%	75.2%	43.5%	14.3%	1.9%
	90歳以上	174	36	34	19	32	36	60	41	144	100	32	8
		100.0%	20.7%	19.5%	10.9%	18.4%	20.7%	34.5%	23.6%	82.8%	57.5%	18.4%	4.6%
要介護度状態区分	要支援１～２	137	2	5	1	8	3	6	4	98	18	1	1
		100.0%	1.5%	3.6%	0.7%	5.8%	2.2%	4.4%	2.9%	71.5%	13.1%	0.7%	0.7%
	要介護１～２	330	35	32	14	59	35	72	43	265	170	66	5
		100.0%	10.6%	9.7%	4.2%	17.9%	10.6%	21.8%	13.0%	80.3%	51.5%	20.0%	1.5%
	要介護３～５	82	45	35	23	27	47	62	40	68	71	27	7
		100.0%	54.9%	42.7%	28.0%	32.9%	57.3%	75.6%	48.8%	82.9%	86.6%	32.9%	8.5%

		合計	食事の準備（調理等）	その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	わからない	合計	無回答	非該当
全体		549	394	437	329	12	1	549	2	69
		100.0%	71.8%	79.6%	59.9%	2.2%	0.2%	100.0%	0.4%	
市区分	島原市	172	127	132	109	3	1	172	0	36
		100.0%	73.8%	76.7%	63.4%	1.7%	0.6%	100.0%	0.0%	
	雲仙市	191	132	148	120	5	0	191	2	16
		100.0%	69.1%	77.5%	62.8%	2.6%	0.0%	100.0%	1.0%	
	南島原市	186	135	157	100	4	0	186	0	17
		100.0%	72.6%	84.4%	53.8%	2.2%	0.0%	100.0%	0.0%	
性別	男性	165	138	133	94	2	0	165	1	28
		100.0%	83.6%	80.6%	57.0%	1.2%	0.0%	100.0%	0.6%	
	女性	384	256	304	235	10	1	384	1	41
		100.0%	66.7%	79.2%	61.2%	2.6%	0.3%	100.0%	0.3%	
年齢	65歳未満	6	3	4	2	0	0	6	0	1
		100.0%	50.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	65-69歳	15	9	10	6	1	0	15	0	6
		100.0%	60.0%	66.7%	40.0%	6.7%	0.0%	100.0%	0.0%	
	70-74歳	25	18	18	18	1	0	25	1	8
		100.0%	72.0%	72.0%	72.0%	4.0%	0.0%	100.0%	4.0%	
	75-79歳	63	42	50	37	0	1	63	0	11
		100.0%	66.7%	79.4%	58.7%	0.0%	1.6%	100.0%	0.0%	
	80-84歳	105	68	82	60	3	0	105	0	13
		100.0%	64.8%	78.1%	57.1%	2.9%	0.0%	100.0%	0.0%	
	85-89歳	161	109	129	99	1	0	161	0	17
		100.0%	67.7%	80.1%	61.5%	0.6%	0.0%	100.0%	0.0%	
	90歳以上	174	145	144	107	6	0	174	1	13
		100.0%	83.3%	82.8%	61.5%	3.4%	0.0%	100.0%	0.6%	
要介護度状態区分	要支援１～２	137	67	97	42	3	0	137	0	44
		100.0%	48.9%	70.8%	30.7%	2.2%	0.0%	100.0%	0.0%	
	要介護１～２	330	255	268	219	8	1	330	1	23
		100.0%	77.3%	81.2%	66.4%	2.4%	0.3%	100.0%	0.3%	
	要介護３～５	82	72	72	68	1	0	82	1	2
		100.0%	87.8%	87.8%	82.9%	1.2%	0.0%	100.0%	1.2%	

（3）保険外の支援・サービスの必要性

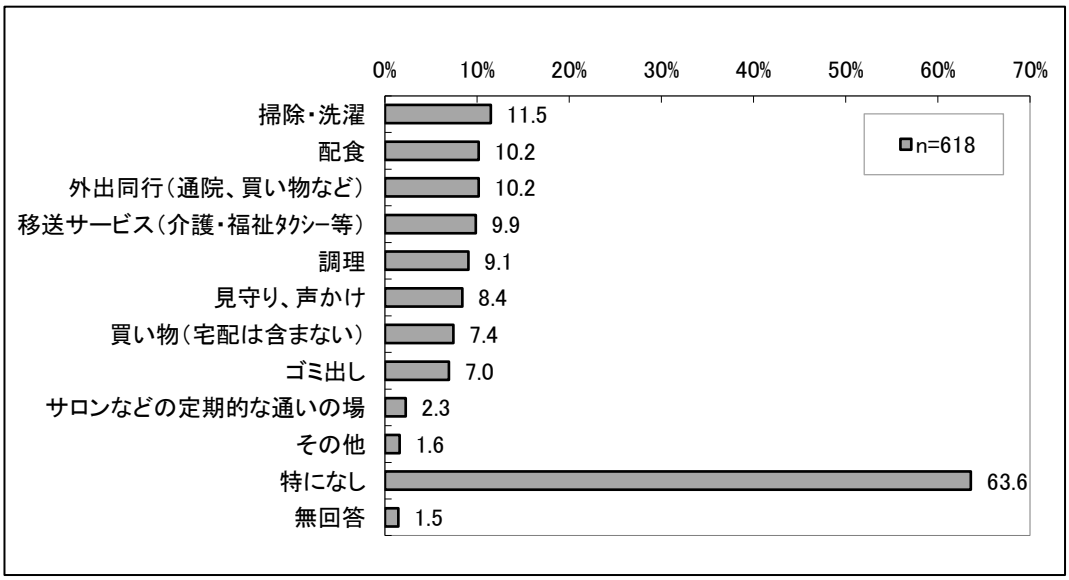
A問9　今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。【複数回答】

▼

結果概要

「特になし」が 63.6%で最も高い割合を占めています。
「掃除・洗濯」(11.5%)、「配食」(10.2%)、「外出同行（通院、買い物など)」(10.2%)、等がこれに続きます。
島原市では、他構成市と比べて保険外の支援・サービスへのニーズがやや高い傾向がみられます。

■保険外の支援・サービスの必要性（全体）■



■保険外の支援・サービスの必要性（全体・属性別）■

		合計	問9_必要な支援・サービス							
			配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）	見守り、声かけ
全体		618	63	56	71	46	43	63	61	52
		100.0%	10.2%	9.1%	11.5%	7.4%	7.0%	10.2%	9.9%	8.4%
市区分	島原市	208	25	25	31	20	18	26	26	17
		100.0%	12.0%	12.0%	14.9%	9.6%	8.7%	12.5%	12.5%	8.2%
	雲仙市	207	21	8	21	12	15	18	16	17
		100.0%	10.1%	3.9%	10.1%	5.8%	7.2%	8.7%	7.7%	8.2%
	南島原市	203	17	23	19	14	10	19	19	18
		100.0%	8.4%	11.3%	9.4%	6.9%	4.9%	9.4%	9.4%	8.9%
性別	男性	193	19	21	21	19	12	25	19	15
		100.0%	9.8%	10.9%	10.9%	9.8%	6.2%	13.0%	9.8%	7.8%
	女性	425	44	35	50	27	31	38	42	37
		100.0%	10.4%	8.2%	11.8%	6.4%	7.3%	8.9%	9.9%	8.7%
年齢	65歳未満	7	0	2	2	1	1	1	0	2
		100.0%	0.0%	28.6%	28.6%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%	28.6%
	65-69歳	21	3	2	3	4	3	2	3	1
		100.0%	14.3%	9.5%	14.3%	19.0%	14.3%	9.5%	14.3%	4.8%
	70-74歳	33	3	5	3	2	1	2	4	4
		100.0%	9.1%	15.2%	9.1%	6.1%	3.0%	6.1%	12.1%	12.1%
	75-79歳	74	8	7	8	5	5	5	7	5
		100.0%	10.8%	9.5%	10.8%	6.8%	6.8%	6.8%	9.5%	6.8%
	80-84歳	118	16	9	14	9	7	11	13	11
		100.0%	13.6%	7.6%	11.9%	7.6%	5.9%	9.3%	11.0%	9.3%
	85-89歳	178	19	16	23	10	12	21	16	14
		100.0%	10.7%	9.0%	12.9%	5.6%	6.7%	11.8%	9.0%	7.9%
	90歳以上	187	14	15	18	15	14	21	18	15
		100.0%	7.5%	8.0%	9.6%	8.0%	7.5%	11.2%	9.6%	8.0%
要介護度状態区分	要支援１～２	181	15	15	14	13	12	17	18	8
		100.0%	8.3%	8.3%	7.7%	7.2%	6.6%	9.4%	9.9%	4.4%
	要介護１～２	353	41	34	46	28	28	38	34	33
		100.0%	11.6%	9.6%	13.0%	7.9%	7.9%	10.8%	9.6%	9.3%
	要介護３～５	84	7	7	11	5	3	8	9	11
		100.0%	8.3%	8.3%	13.1%	6.0%	3.6%	9.5%	10.7%	13.1%

		合計	サロンなどの定期的な通いの場	その他	特になし	無回答
全体		618	14	10	393	9
		100.0%	2.3%	1.6%	63.6%	1.5%
市区分	島原市	208	6	6	123	2
		100.0%	2.9%	2.9%	59.1%	1.0%
	雲仙市	207	6	3	130	7
		100.0%	2.9%	1.4%	62.8%	3.4%
	南島原市	203	2	1	140	0
		100.0%	1.0%	0.5%	69.0%	0.0%
性別	男性	193	4	1	130	2
		100.0%	2.1%	0.5%	67.4%	1.0%
	女性	425	10	9	263	7
		100.0%	2.4%	2.1%	61.9%	1.6%
年齢	65歳未満	7	0	1	4	1
		100.0%	0.0%	14.3%	57.1%	14.3%
	65-69歳	21	0	0	14	0
		100.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%
	70-74歳	33	1	0	20	0
		100.0%	3.0%	0.0%	60.6%	0.0%
	75-79歳	74	1	0	49	1
		100.0%	1.4%	0.0%	66.2%	1.4%
	80-84歳	118	4	2	72	1
		100.0%	3.4%	1.7%	61.0%	0.8%
	85-89歳	178	3	1	113	2
		100.0%	1.7%	0.6%	63.5%	1.1%
	90歳以上	187	5	6	121	4
		100.0%	2.7%	3.2%	64.7%	2.1%
要介護度状態区分	要支援１～２	181	2	3	120	1
		100.0%	1.1%	1.7%	66.3%	0.6%
	要介護１～２	353	10	5	219	7
		100.0%	2.8%	1.4%	62.0%	2.0%
	要介護３～５	84	2	2	54	1
		100.0%	2.4%	2.4%	64.3%	1.2%

（4）施設等の検討状況

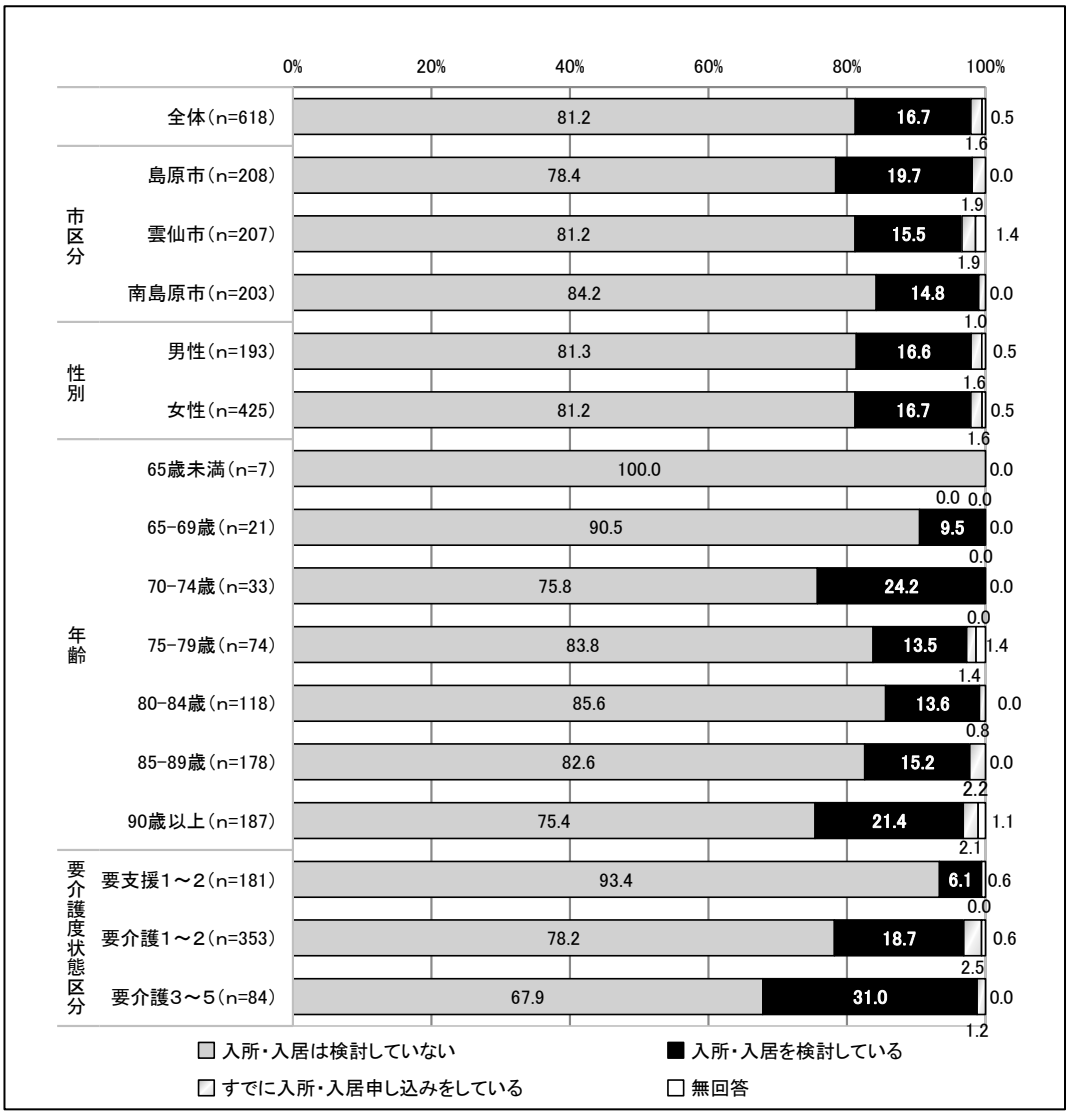
A問 10　現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。

▼

結果概要

「入所・入居は検討していない」が 81.2%で最も高い割合を占めています。
年齢別でみると、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」を足し合わせた“入所・入居ニーズあり”が高い割合を占めたのは 70-74 歳で 24.2%、続いて 90 歳以上で 23.5%となっています。

■施設等の検討状況（全体・属性別）■



（５）介護者の勤務形態

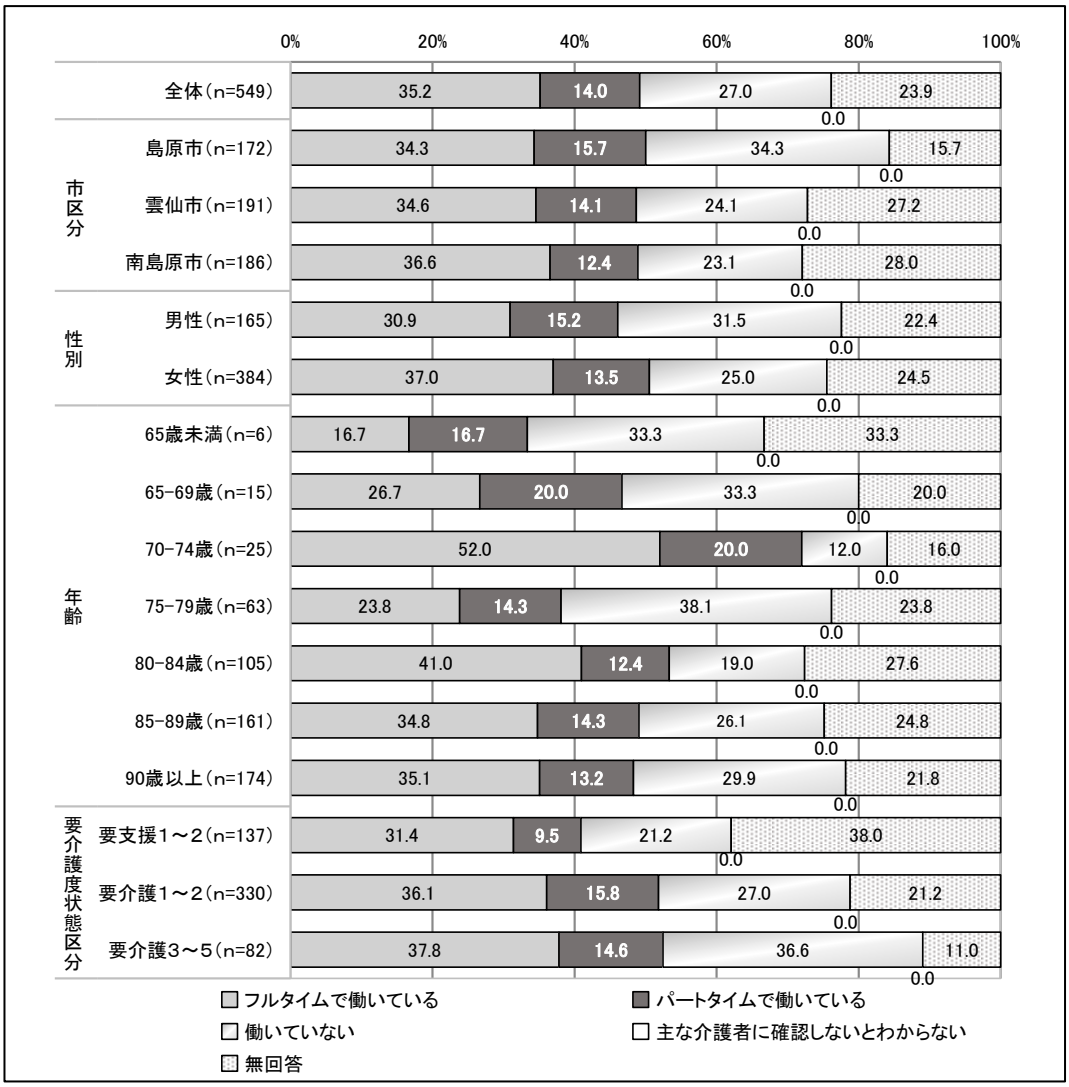
A問２で「２.」～「５.」を選択された方（家族や親族が介護している方）
B問１　主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。

▼

結果概要

「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を足し合わせた“働いている”が 49.2%で、回答者のおよそ半数を占めています。

■介護者の勤務形態（全体・属性別）■



（６）効果的な勤め先からの支援

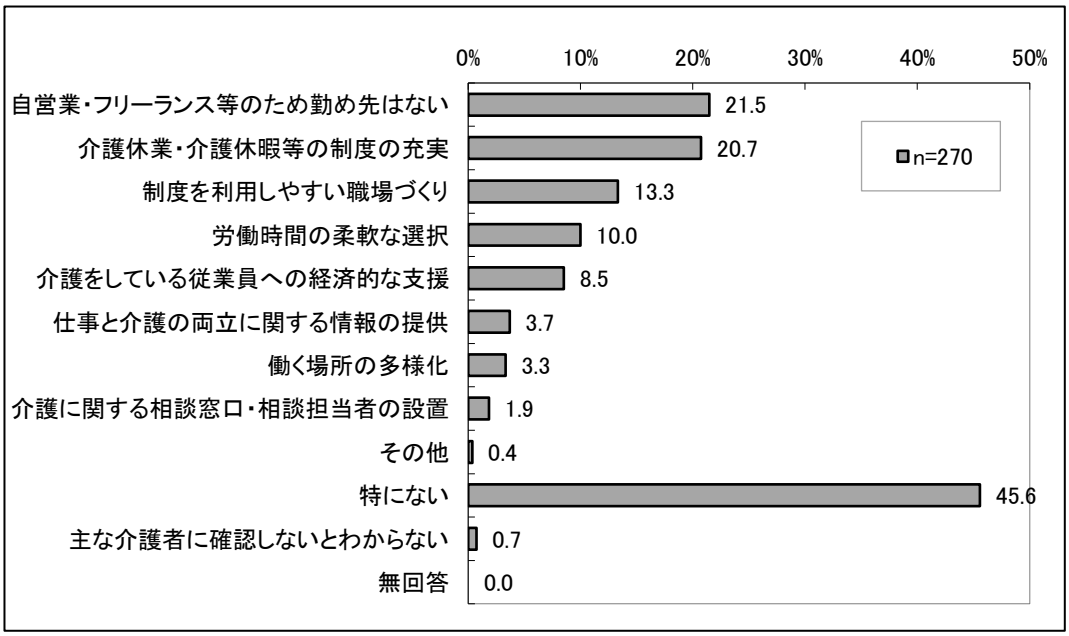
B問１で「１.」「２.」と回答した方のみ（働いている方）
B問３　主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。【複数回答】

▼

結果概要

「特にない」を除いて、回答割合が多い順に「自営業・フリーランス等のため勤め先はない」（21.5%）が第１位、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」（20.7%）が第２位、「制度を利用しやすい職場づくり」（13.3%）が第３位となっています。
「特にない」は 45.6%となっています。

■効果的な勤め先からの支援（全体）■



（7）介護者が不安に感じる介護

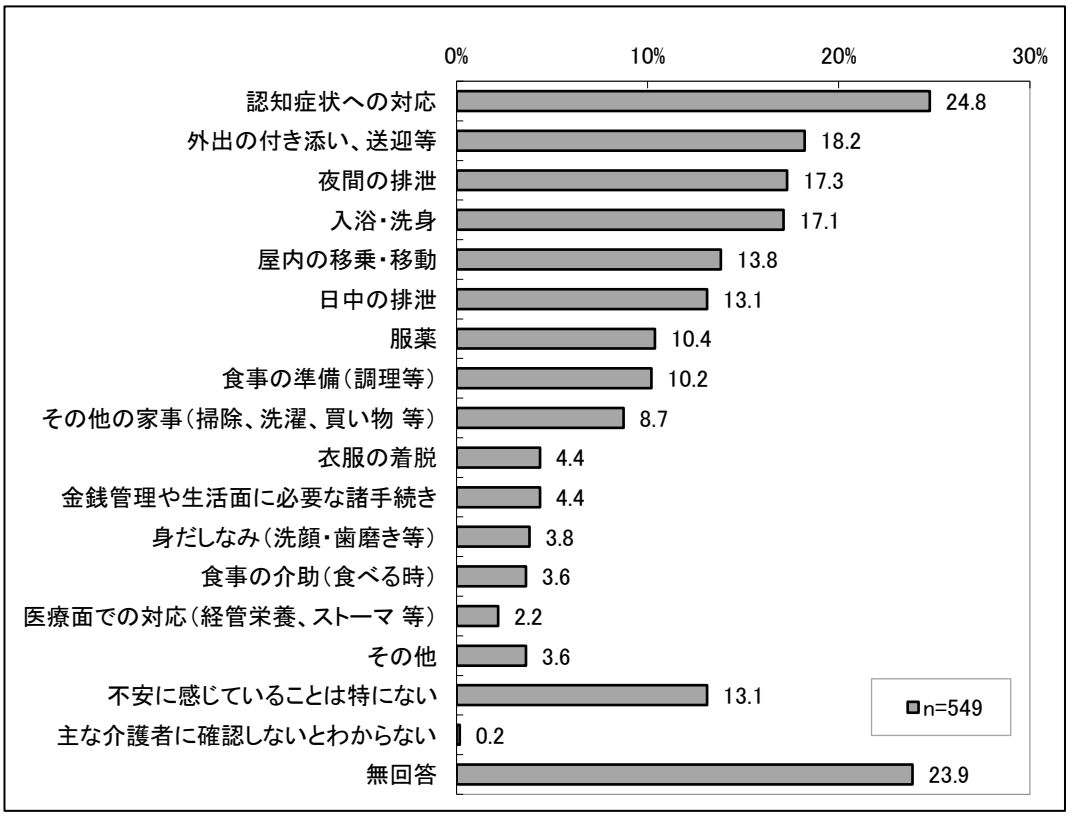
B問5　現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。【複数回答】

▼

結果概要

「認知症状への対応」が 24.8%で最も高い割合を占めています。
「外出の付き添い、送迎等」（18.2%）、「夜間の排泄」（17.3%）、「入浴・洗身」（17.1%）等がこれに続きます。
「不安に感じていることは特にない」は 13.1%となっています。

■介護者が不安に感じる介護（全体）■



２．調査結果の要旨

（１）在宅介護を支える家族介護の負担

家族等による介護頻度では、「ほぼ毎日介護がある」が 63.3%を占め、要介護３～５では 89.3%に達しています。重度化するほど家族介護への依存度が高く、在宅生活の継続を支えるうえで家族の役割が極めて重要となっています。

介護者が担う内容では、「掃除・洗濯・買い物等」が 79.6%、「外出の付き添い・送迎等」が 78.5%、「食事の準備」が 71.8%と高く、身体介護だけでなく日常生活全般にわたる支援が行われています。特に通院や買い物時の移動支援は、圏域の地域特性を踏まえても重要な課題といえます。

（２）在宅生活継続への支援が必要

保険外サービスの利用意向については、「特になし」が 63.6%を占めるものの、「掃除・洗濯」、「配食」、「外出同行」などへのニーズも一定程度みられます。介護保険サービスに加え、地域住民や民間サービスによる生活支援の充実が求められます。

また、「施設入所を検討していない」が 81.2%を占めており、多くの高齢者が住み慣れた地域や自宅での生活継続を希望していることがうかがえます。このため、在宅サービスや地域包括ケア体制の充実が引き続き重要となります。

（３）就労継続と認知症対応への支援が課題

主な介護者の 49.2%は就労しており、仕事と介護を両立している状況にあります。介護離職の防止に向けて、介護休業・介護休暇制度の充実や利用しやすい職場環境づくりが必要となっています。

また、介護者が不安に感じる介護内容では、「認知症状への対応」が 24.8%で最も高く、「外出の付き添い・送迎」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」等が続きます。今後の認知症高齢者の増加を見据え、認知症支援や家族介護者への相談支援の強化が求められます。

（４）総括

本調査からは、多くの高齢者が在宅生活の継続を希望する一方で、その生活は家族介護によって支えられている実態が明らかとなりました。特に認知症対応や移動支援、仕事と介護の両立が大きな課題となっています。今後は、介護者支援の充実、生活支援サービスの確保、認知症施策の強化を進めることで、高齢者本人と家族の双方が安心して在宅生活を継続できる体制づくりが求められます。

Ⅳ　居所変更実態調査結果の概要

１．調査結果（一部抜粋）

（１）過去１年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合

看取りに至った割合（「死亡」の割合）は、全体として 27.8%にとどまります。
看取りに至った割合をサービス種別ごとにみると、「特養」が 65.3%で最も高くなっている一方、34.7%が居所変更となっています。

過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合

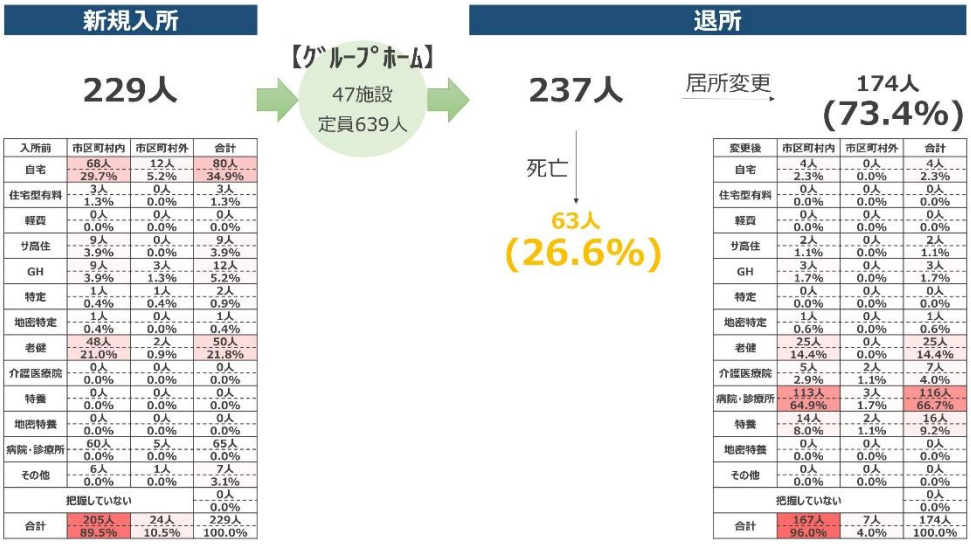
サービス種別	居所変更	死亡	合計
住宅型有料	0人	0人	0人
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%
軽費	6人	0人	6人
(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%
サ高住	0人	0人	0人
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%
GH	174人	63人	237人
(n=47)	73.4%	26.6%	100.0%
特定	61人	22人	83人
(n=9)	73.5%	26.5%	100.0%
地密特定	0人	0人	0人
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%
老健	332人	45人	377人
(n=5)	88.1%	11.9%	100.0%
介護医療院	16人	20人	36人
(n=1)	44.4%	55.6%	100.0%
特養	43人	81人	124人
(n=8)	34.7%	65.3%	100.0%
地密特養	22人	21人	43人
(n=5)	51.2%	48.8%	100.0%
合計	654人	252人	906人
(n=76)	72.2%	27.8%	100.0%

注目すべきポイント
・看取りまでできているのはどの住まいか？

（2）過去１年間のグループホームの入所及び退所の流れ

グループホームにおける過去１年間の新規入所は「自宅」（34.9%）からが最も多く、次いで「老健」（21.8%）からの入所が多くなっています。
一方、退所先としては「病院・診療所」が 66.7%で最も多くなっています。

過去1年間のグループホームの入所及び退所の流れ



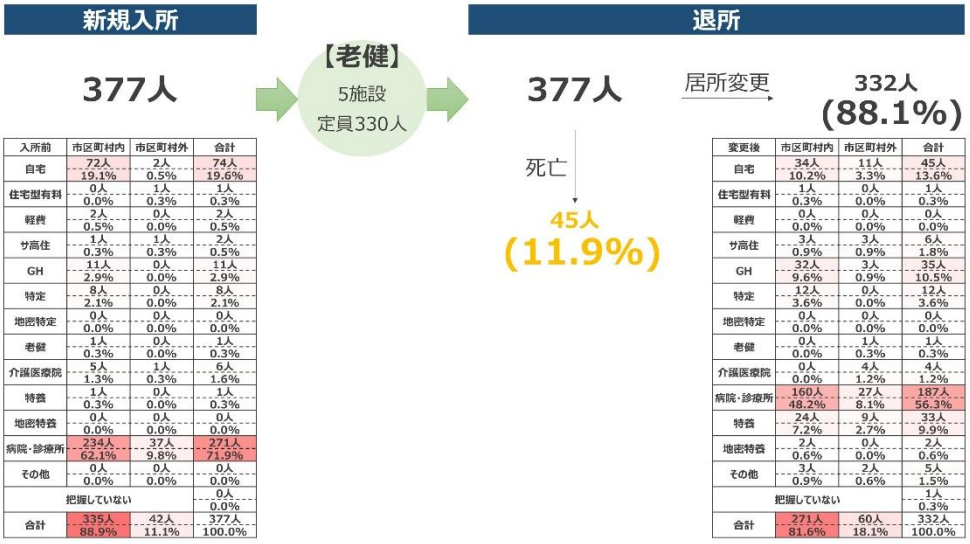
入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	68人 29.7%	12人 5.2%	80人 34.9%
住宅型有料	3人 1.3%	0人 0.0%	3人 1.3%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	9人 3.9%	0人 0.0%	9人 3.9%
GH	9人 3.9%	3人 1.3%	12人 5.2%
特定	1人 0.4%	1人 0.4%	2人 0.9%
地密特定	1人 0.4%	0人 0.0%	1人 0.4%
老健	48人 21.0%	2人 0.9%	50人 21.8%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	60人 0.0%	5人 0.0%	65人 0.0%
その他	6人 0.0%	1人 0.0%	7人 3.1%
把握していない			0人 0.0%
合計	205人 89.5%	24人 10.5%	229人 100.0%

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	4人 2.3%	0人 0.0%	4人 2.3%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	2人 1.1%	0人 0.0%	2人 1.1%
GH	3人 1.7%	0人 0.0%	3人 1.7%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	1人 0.6%	0人 0.0%	1人 0.6%
老健	25人 14.4%	0人 0.0%	25人 14.4%
介護医療院	5人 2.9%	2人 1.1%	7人 4.0%
病院・診療所	113人 64.9%	3人 1.7%	116人 66.7%
特養	14人 8.0%	2人 1.1%	16人 9.2%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	167人 96.0%	7人 4.0%	174人 100.0%

（3）過去１年間の介護老人保健施設の入所及び退所の流れ

介護老人保健施設における過去１年間の新規入所は「病院・診療所」（71.9%）からが主となっています。
退所先として「自宅」は 13.6%にとどまっており、在宅復帰の困難さがうかがえます。

過去1年間の介護老人保健施設の入所及び退所の流れ



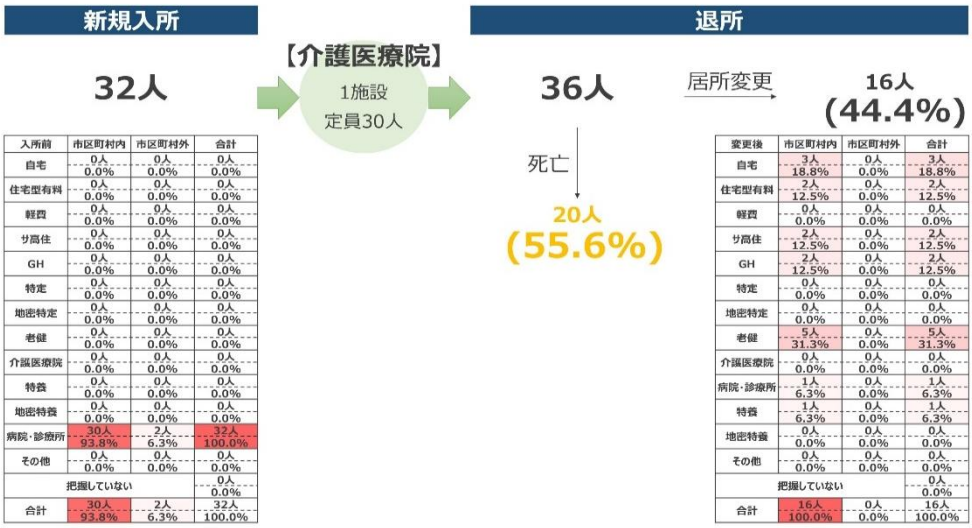
入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	72人 19.1%	2人 0.5%	74人 19.6%
住宅型有料	0人 0.0%	1人 0.3%	1人 0.3%
軽費	2人 0.5%	0人 0.0%	2人 0.5%
サ高住	1人 0.3%	1人 0.3%	2人 0.5%
GH	11人 2.9%	0人 0.0%	11人 2.9%
特定	8人 2.1%	0人 0.0%	8人 2.1%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	1人 0.3%	0人 0.0%	1人 0.3%
介護医療院	5人 1.3%	1人 0.3%	6人 1.6%
特養	1人 0.3%	0人 0.0%	1人 0.3%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	234人 62.1%	37人 9.8%	271人 71.9%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	335人 88.9%	42人 11.1%	377人 100.0%

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	34人 10.2%	11人 3.3%	45人 13.6%
住宅型有料	1人 0.3%	0人 0.0%	1人 0.3%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	3人 0.9%	3人 0.9%	6人 1.8%
GH	32人 9.6%	3人 0.9%	35人 10.5%
特定	12人 3.6%	0人 0.0%	12人 3.6%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	0人 0.0%	1人 0.3%	1人 0.3%
介護医療院	0人 0.0%	4人 1.2%	4人 1.2%
病院・診療所	160人 48.2%	27人 8.1%	187人 56.3%
特養	24人 7.2%	9人 2.7%	33人 9.9%
地密特養	2人 0.6%	0人 0.0%	2人 0.6%
その他	3人 0.9%	2人 0.6%	5人 1.5%
把握していない			1人 0.3%
合計	271人 81.6%	60人 18.1%	332人 100.0%

（４）過去１年間の介護医療院の入所及び退所の流れ

介護医療院における過去１年間の新規入所は「病院・診療所」からが 100.0%を占めています。
退所者のおよそ半数（55.6%）は看取りを迎えていますが、居所変更となる割合が 44.4%で、居所変更先は多様となっています。

過去1年間の介護医療院の入所及び退所の流れ



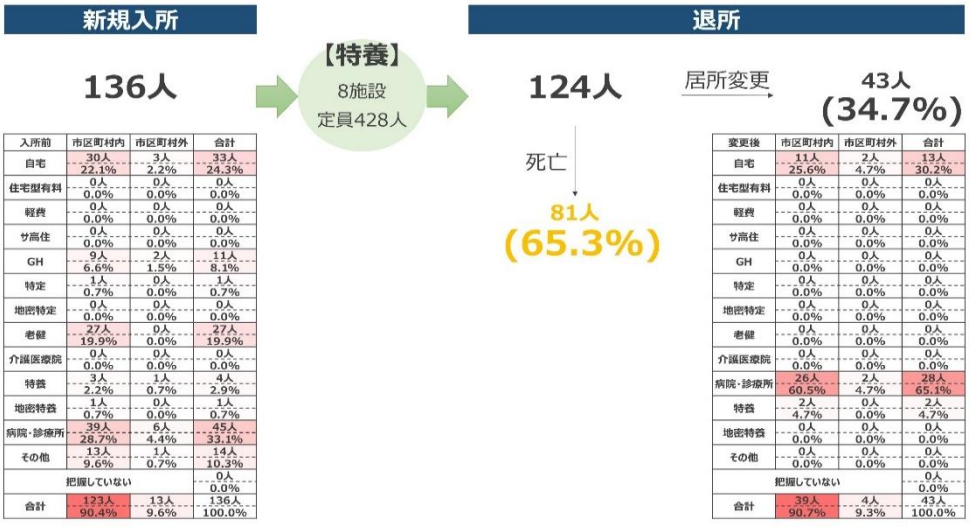
入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	30人 93.8%	2人 6.3%	32人 100.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	30人 93.8%	2人 6.3%	32人 100.0%

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	3人 18.8%	0人 0.0%	3人 18.8%
住宅型有料	2人 12.5%	0人 0.0%	2人 12.5%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	2人 12.5%	0人 0.0%	2人 12.5%
GH	2人 12.5%	0人 0.0%	2人 12.5%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	5人 31.3%	0人 0.0%	5人 31.3%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	1人 6.3%	0人 0.0%	1人 6.3%
特養	1人 6.3%	0人 0.0%	1人 6.3%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	16人 100.0%	0人 0.0%	16人 100.0%

（５）過去１年間の特別養護老人ホームの入所及び退所の流れ

特別養護老人ホームにおける過去１年間の新規入所は「病院・診療所」（33.1%）、「自宅」（24.3）%、「老健」（19.9%）からが多くなっています。
退所者のおよそ 65.3%は看取りを迎えていますが、「病院・診療所」や「自宅」へ居所変更となるケースもみられます。

過去1年間の特別養護老人ホームの入所及び退所の流れ



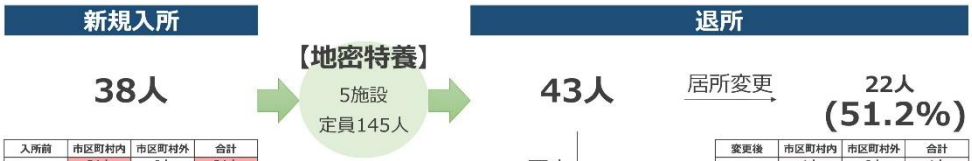
入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	30人 22.1%	3人 2.2%	33人 24.3%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	9人 6.6%	2人 1.5%	11人 8.1%
特定	1人 0.7%	0人 0.0%	1人 0.7%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	27人 19.9%	0人 0.0%	27人 19.9%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養	3人 2.2%	1人 0.7%	4人 2.9%
地密特養	1人 0.7%	0人 0.0%	1人 0.7%
病院・診療所	39人 28.7%	6人 4.4%	45人 33.1%
その他	13人 9.6%	1人 0.7%	14人 10.3%
把握していない			0人 0.0%
合計	123人 90.4%	13人 9.6%	136人 100.0%

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	11人 25.6%	2人 4.7%	13人 30.2%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	26人 60.5%	2人 4.7%	28人 65.1%
特養	2人 4.7%	0人 0.0%	2人 4.7%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	39人 90.7%	4人 9.3%	43人 100.0%

（６）過去１年間の地域密着型特別養護老人ホームの入所及び退所の流れ

地域密着型特別養護老人ホームにおける過去１年間の新規入所は「自宅」からが最も多く 55.3%を占めています。
退所者の 48.8%が看取りを迎えていますが、その他の退所者の居所変更先は「病院・診療所」（77.3%）が主となっています。

過去1年間の地域密着型特別養護老人ホームの入所及び退所の流れ



入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	21人 55.3%	0人 0.0%	21人 55.3%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	2人 5.3%	0人 0.0%	2人 5.3%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	1人 2.6%	1人 2.6%	2人 5.3%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養	3人 7.9%	0人 0.0%	3人 7.9%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	8人 21.1%	0人 0.0%	8人 21.1%
その他	1人 2.6%	1人 2.6%	2人 5.3%
把握していない			0人 0.0%
合計	36人 94.7%	2人 5.3%	38人 100.0%

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	1人 4.5%	0人 0.0%	1人 4.5%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	0人 0.0%	1人 4.5%	1人 4.5%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院	2人 9.1%	0人 0.0%	2人 9.1%
病院・診療所	12人 54.5%	5人 22.7%	17人 77.3%
特養	0人 0.0%	1人 4.5%	1人 4.5%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	15人 68.2%	7人 31.8%	22人 100.0%

（７）居所変更した理由

居所変更の理由としては、「医療的ケア」が最も多く回答を集めています。

居所変更した理由

サービス種別	生活支援	身体介護	認知症	医療的ケア	その他状態像の悪化	状態等の改善	居宅サービス利用を望まなかった	費用負担	本人の希望	その他	無回答
住宅型有料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
軽費	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0
(n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
サ高住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
GH	0	9	6	44	6	0	0	4	5	7	0
(n=47)	0.0%	19.1%	12.8%	93.6%	12.8%	0.0%	0.0%	8.5%	10.6%	14.9%	0.0%
特定	2	3	1	9	2	0	0	1	2	2	0
(n=9)	22.2%	33.3%	11.1%	100.0%	22.2%	0.0%	0.0%	11.1%	22.2%	22.2%	0.0%
地密特定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
老健	0	2	0	4	0	5	0	0	2	1	0
(n=5)	0.0%	40.0%	0.0%	80.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%
介護医療院	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0
(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
特養	0	0	2	7	1	0	0	0	0	3	0
(n=8)	0.0%	0.0%	25.0%	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	0.0%
地密特養	0	1	1	5	0	0	0	1	1	2	0
(n=5)	0.0%	20.0%	20.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%
合計	2	16	10	71	9	6	0	6	11	16	0
(n=76)	2.6%	21.1%	13.2%	93.4%	11.8%	7.9%	0.0%	7.9%	14.5%	21.1%	0.0%

（8）受け入れ可能な医療処置の種類

老健や特養においても多くの種別の医療処置に対応しており、医療的な管理の必要な利用者を積極的に受け入れている様子が見受けられます。

受け入れ可能な医療処置の種類

サービス種別	点滴の管理	中心静脈栄養	透析	ｽﾄｰﾏの処置	酸素療法	ﾚｽﾋﾟﾚｰﾀｰ	気管切開の処置	疼痛の看護	経管栄養	ﾓﾆﾀｰ測定	褥瘡の処置	ｶﾃｰﾃﾙ	喀痰吸引	ｲﾝｽﾘﾝ注射	対応可能な医療処置はない
住宅型有料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
軽費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
サ高住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
GH	9	1	7	11	23	0	0	6	1	0	17	8	3	11	19
(n=47)	19.1%	2.1%	14.9%	23.4%	48.9%	0.0%	0.0%	12.8%	2.1%	0.0%	36.2%	17.0%	6.4%	23.4%	40.4%
特定	4	0	3	6	8	0	1	3	0	0	6	4	4	4	1
(n=9)	44.4%	0.0%	33.3%	66.7%	88.9%	0.0%	11.1%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	44.4%	44.4%	44.4%	11.1%
地密特定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
老健	5	2	1	5	5	0	4	4	5	3	5	5	5	5	0
(n=5)	100.0%	40.0%	20.0%	100.0%	100.0%	0.0%	80.0%	80.0%	100.0%	60.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
介護医療院	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0
(n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
特養	4	0	0	7	8	0	0	3	6	0	6	6	6	8	0
(n=8)	50.0%	0.0%	0.0%	87.5%	100.0%	0.0%	0.0%	37.5%	75.0%	0.0%	75.0%	75.0%	75.0%	100.0%	0.0%
地密特養	3	0	1	3	4	0	0	0	4	0	4	1	4	3	0
(n=5)	60.0%	0.0%	20.0%	60.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%	0.0%	80.0%	20.0%	80.0%	60.0%	0.0%
合計	26	3	12	32	49	0	5	16	17	3	39	25	23	32	21
(n=76)	34.2%	3.9%	15.8%	42.1%	64.5%	0.0%	6.6%	21.1%	22.4%	3.9%	51.3%	32.9%	30.3%	42.1%	27.6%

２．調査結果の要旨

（１）看取りに至る割合はサービス種別で差

過去１年間の退居・退所者のうち、死亡による看取りに至った割合は全体で 27.8%にとどまり、約７割は施設・居住系サービスからの居所変更となっています。特別養護老人ホーム（65.3%）や地域密着型特別養護老人ホーム（48.8%）では、看取りに至る割合が比較的高くなっています。

（２）在宅復帰の難しさと医療機関への移行

介護老人保健施設は病院・診療所からの新規入所が 71.9%を占め、退所後の自宅への居所変更は 13.6%にとどまるなど、在宅復帰の難しさがうかがえます。介護医療院も新規入所の 100.0%が病院・診療所からとなっており、退所後は看取り（55.6%）と居所変更（44.4%）がおおむね拮抗し、居所変更先は多様となっています。また、グループホームでは退所先の 66.7%、地域密着型特別養護老人ホームでは居所変更先の 77.3%が「病院・診療所」となっており、認知症高齢者や要介護度の高い高齢者についても、状態の悪化に伴い医療機関へ移行するケースが多いことがわかります。

（３）医療的ケアへの対応強化が鍵

居所変更の理由としては「医療的ケア」が最も多く挙げられており、介護老人保健施設や特別養護老人ホーム等でも多くの種別の医療処置への対応が行われている実態がうかがえます。

（４）総括

今後、介護人材の確保が困難となる地域が増えることを踏まえると、施設・居住系サービスにおいては量の拡大よりも、医療的ケアをはじめとした機能の強化を図ることが、利用者が住み慣れた場所で最後まで暮らし続けられるかどうかを左右する重要な鍵になると考えられます。

Ⅴ　在宅生活改善調査結果の概要

１．調査結果（一部抜粋）

（１）過去１年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

自宅等からの居所変更先のおよそ９割が管内での異動となっています。

過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

行先	市区町村内	市区町村外	合計
兄弟・子ども・親戚等の家	1人 0.1%	22人 2.9%	23人 3.1%
住宅型有料老人ホーム	68人 9.0%	6人 0.8%	74人 9.8%
軽費老人ホーム	9人 1.2%	0人 0.0%	9人 1.2%
サービス付き高齢者向け住宅	28人 3.7%	6人 0.8%	34人 4.5%
グループホーム	126人 16.8%	7人 0.9%	133人 17.7%
特定施設	30人 4.0%	3人 0.4%	33人 4.4%
地域密着型特定施設	0人 0.0%	1人 0.1%	1人 0.1%
介護老人保健施設	96人 12.8%	10人 1.3%	106人 14.1%
介護医療院	17人 2.3%	0人 0.0%	17人 2.3%
特別養護老人ホーム	119人 15.8%	11人 1.5%	130人 17.3%
地域密着型特別養護老人ホーム	36人 4.8%	0人 0.0%	36人 4.8%
病院・診療所	107人 14.2%	15人 2.0%	122人 16.2%
その他	32人 4.3%	2人 0.3%	34人 4.5%
行先を把握していない			0人 0.0%
合計	669人 89.0%	83人 11.0%	752人 100.0%

（注）「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。

（２）過去１年間の居所変更と自宅等における死亡の割合

居所を変更するケースが 73.7%、自宅で死亡するケースは 26.3%となっています。

過去1年間の居所変更と自宅等における死亡の割合



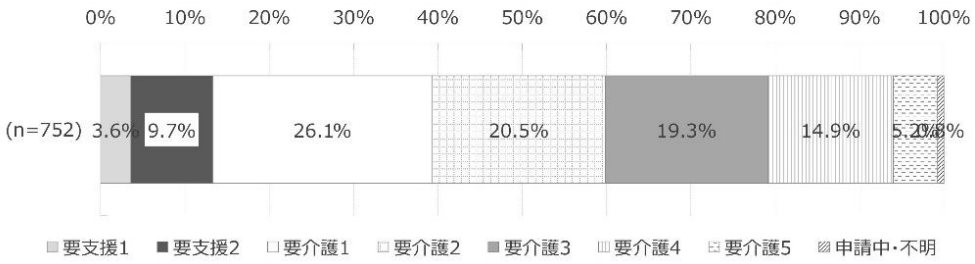
	粗推計	回答実数
島原地域広域市町村圏組合全体で、過去1年間に自宅等から居所を変更した利用者数	784人	752人
島原地域広域市町村圏組合全体で、過去1年間に自宅等で死亡した利用者数	279人	268人

（注１）「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。
（注２）「粗推計」は、居所を変更した利用者数や自宅等で死亡した利用者数に、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

（３）過去１年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度別の内訳

要支援のうちは居所を変更するケースは 13.3%と少なくなっています。
要介護度４～５では、要介護度１～３よりも居所変更の割合は低くなっています。

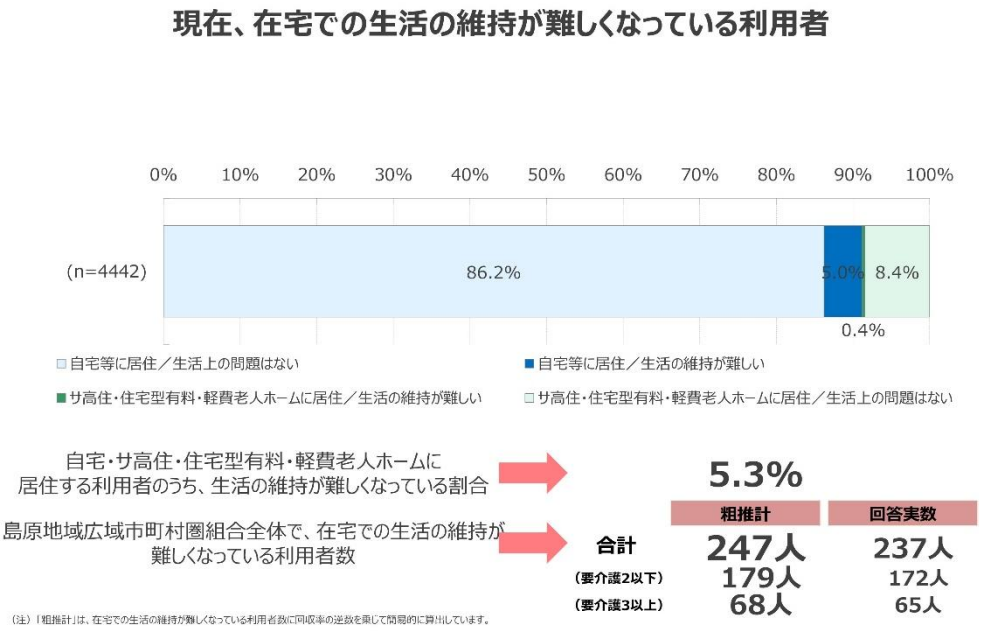
過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳



（注１）「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。また、死亡した方は集計から除いています。

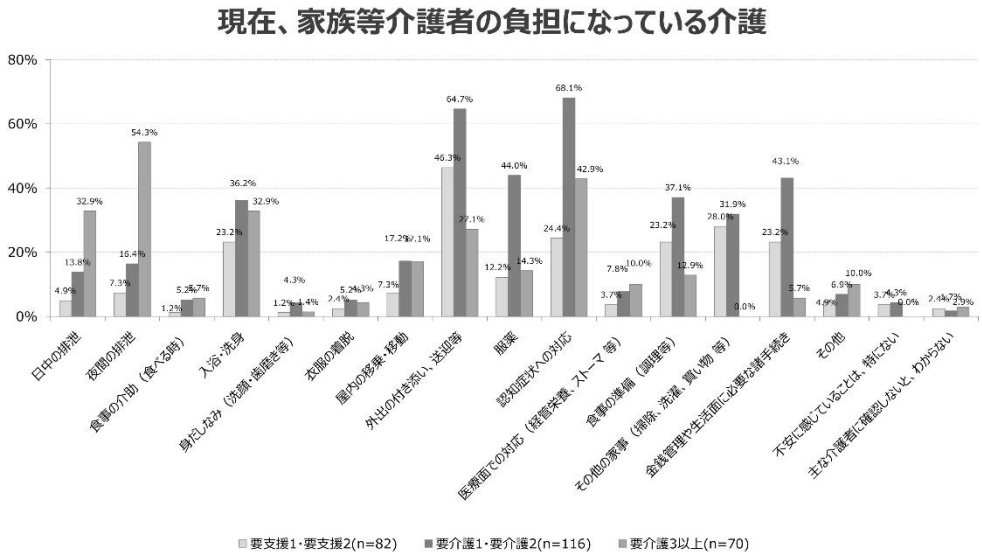
（４）現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者

今後、居所変更の可能性がある人は、管内で 247 人と推計されています。



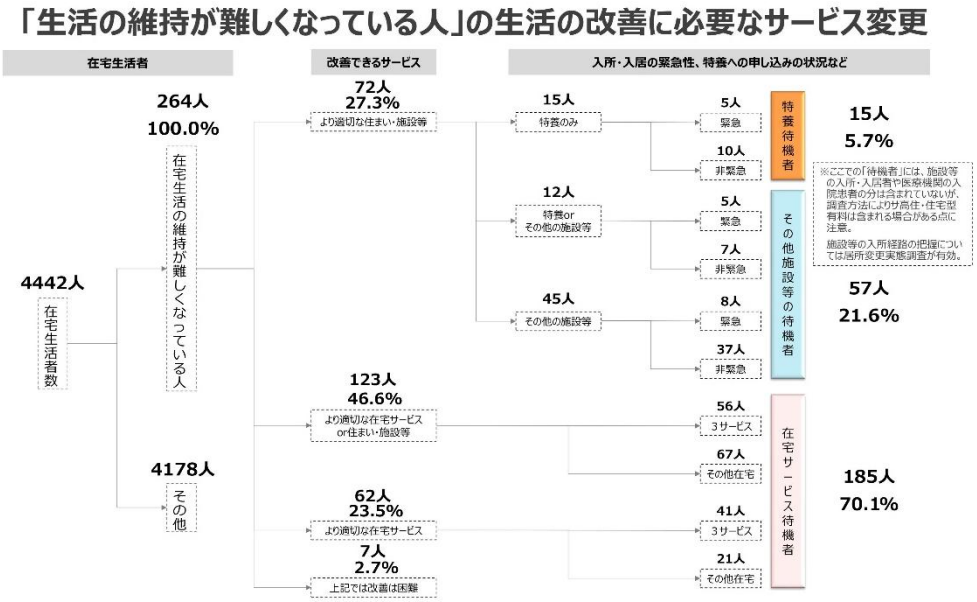
（５）現在、家族等介護者の負担になっている介護

要支援１・要支援２では、「外出の付き添い、送迎等」が 46.3%で第１位、
要介護１・要介護２では、「認知症状への対応」が 68.1%で第１位、
要介護３以上では、「夜間の排泄」が 54.3%で第１位となっています。
要介護状態によって、家族等介護者の負担になっている介護に差が生じています。



（6）「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更

「生活の維持が難しくなっている人」のおよそ７割は、より適切な在宅サービスまたは住まいを活用することで生活の維持・改善が期待できると見込まれています。



（注１）「より適切な在宅サービス or 住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。

（注２）「生活の維持が難しくなっている人」の合計 205 人のうち、上記の分類が可能な 205 人について分類しています（分類不能な場合は「その他」に算入しています）。割合（%）は、205 人を分母として算出したものです。

（注３）「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の方を含めています。

（注４）上記に示す人数は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」ではありません。

２．調査結果の要旨

（１）多くが管内で居所を変更し、約４人に１人が自宅等で死亡

過去１年間に自宅等から居所を変更した利用者のうち、およそ９割は管内での居所変更となっています。居所変更・死亡の状況をみると、居所変更が 73.7%（回答実数 752 人）、自宅等における死亡が 26.3%（回答実数 268 人）となっており、多くの利用者が最終的に施設等へ移行している実態がうかがえます。要介護度別では、要支援の段階で居所を変更するケースは少数にとどまるほか、要介護４・５では、要介護１～３と比べて居所変更の割合は低くなっています。

（２）要介護度に応じて異なる家族介護者の負担

現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者は、管内でおよそ 247 人と見込まれています。家族等介護者の負担となっている介護内容は要介護度によって異なり、要支援１・２では「外出の付き添い、送迎等」（46.3%）、要介護１・２では「認知症状への対応」（68.1%）、要介護３以上では「夜間の排泄」（54.3%）が、それぞれ最も高い割合を占めています。

（３）在宅サービス・住まいの整備で改善が見込める層も多い

「生活の維持が難しくなっている人」のうち、およそ７割（71.6%）は、より適切な在宅サービスや住まい・施設等を活用することで、生活の維持・改善が期待できると見込まれています。

（４）総括

本調査からは、住み慣れた自宅等での生活の継続が困難となる要因が、要介護度によって多様であり、また、居所変更後の受け皿の多くが管内で確保されている実態が明らかとなりました。今後は、要介護度ごとの介護者負担の特性を踏まえた在宅支援の充実と、より適切な在宅サービス・住まいへの移行を促す体制の整備を一体的に進めることが、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりにつながると考えられます。

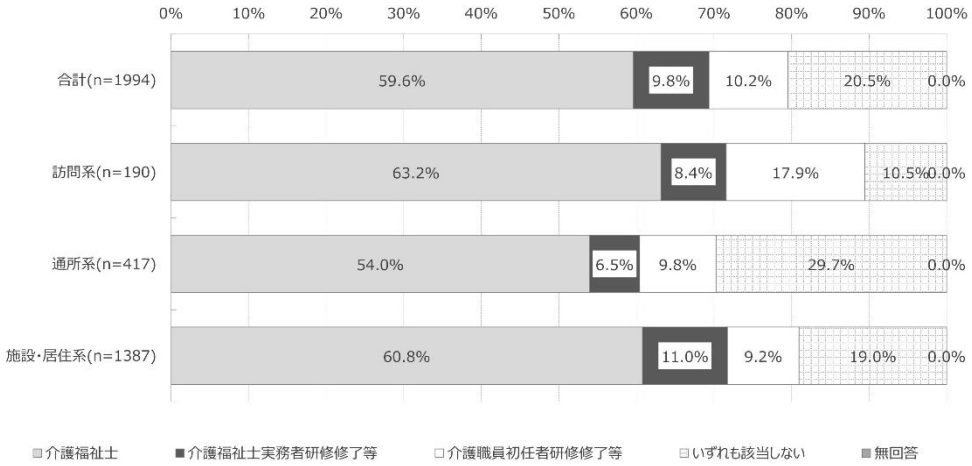
Ⅵ　介護人材実態調査結果の概要

１．調査結果（一部抜粋）

（１）サービス系統別の資格保有の状況

訪問系サービスで介護福祉士の保有率が高くなっています（63.2%）。

サービス系統別の資格保有の状況



（注）「合計」にはサービス系統不詳の方を含めています。

（２）介護職員数の変化と前の職場が介護事業所である職員の前の職場の場所

全体として、介護職員数は昨年比でわずかに増えています（+0.7%）。

介護職員数の変化

サービス系統（該当事業所数）	職員総数			採用者数			離職者数			昨年比		
	常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計
全サービス系統(n=177)	1461人	603人	2064人	164人	122人	286人	163人	109人	272人	100.1%	102.2%	100.7%
訪問系(n=25)	154人	92人	246人	13人	11人	24人	15人	15人	30人	98.7%	95.8%	97.6%
通所系(n=56)	277人	144人	421人	41人	35人	76人	30人	25人	55人	104.1%	107.5%	105.3%
施設･居住系(n=96)	1030人	367人	1397人	110人	76人	186人	118人	69人	187人	99.2%	101.9%	99.9%

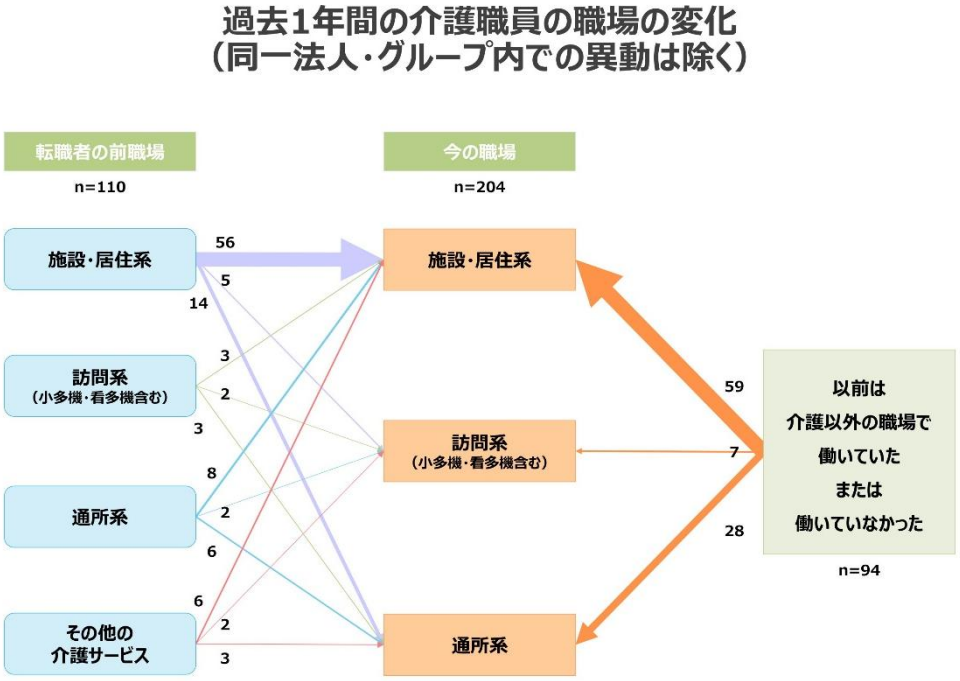
前の職場が介護事業所である職員の前の職場の場所

前の職場の場所	現在の職場							
	全サービス系統		訪問系		通所系		施設･居住系	
合計	146人	100.0%	11人	100.0%	35人	100.0%	100人	100.0%
同一市区町村	74人	50.7%	1人	9.1%	16人	45.7%	57人	57.0%
他の市区町村	69人	47.3%	10人	90.9%	19人	54.3%	40人	40.0%

（注）上表・下表の「全サービス系統」にはサービス系統不詳の事業所を含めています。また、下表の「合計」には前の職場の場所が不詳の方を含めています。

（3）過去１年間の介護職員の職場の変化

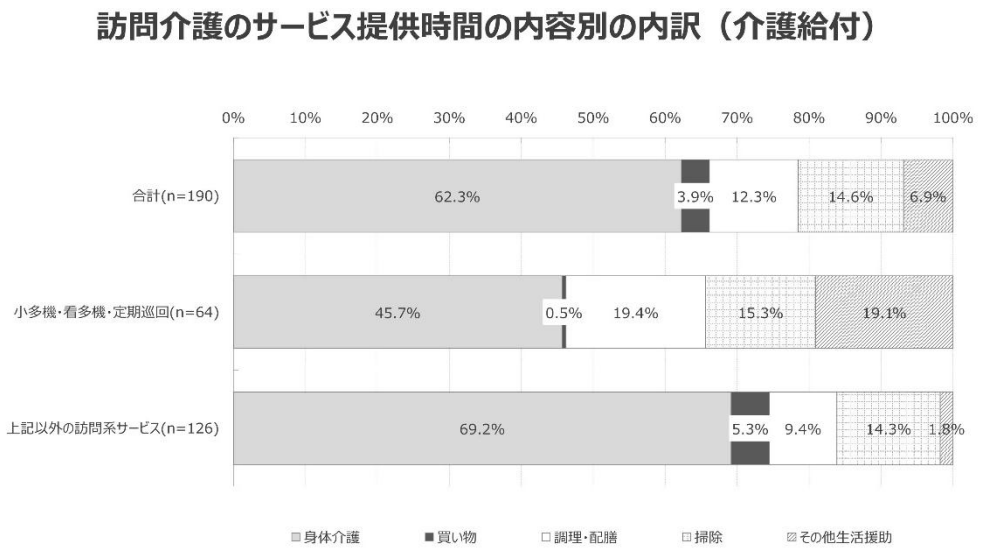
「以前は介護以外の職場で働いていた　または働いていなかった」が 204 のサンプルのうち 94 で、46.1%となっています。
職場として「訪問系（小多機・看多機含む）」が選ばれるケースは少なくなっている現状がうかがえます。



（注）上記の分類が可能となるすべての設問に回答のあった方のみを集計対象としています。

（４）訪問介護のサービス提供時間の内容別の内訳（介護給付）

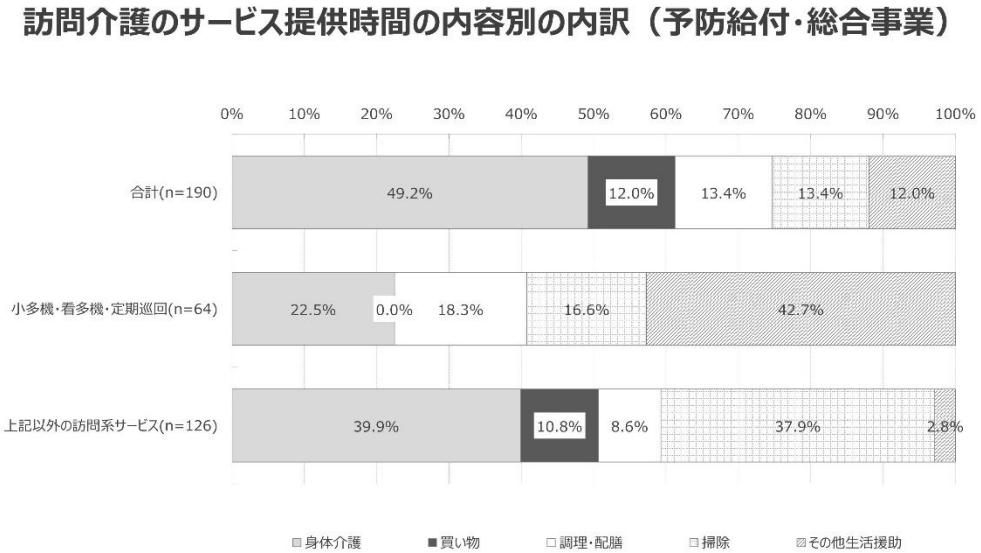
全体としては、「身体介護」の提供時間の割合が最も高くなっています（62.3%）。
小多機・看多機・定期巡回とその他の訪問系サービスでは、傾向に差がみられます。



（注１）総提供時間に占める各サービス提供時間の構成比を示しています。
（注２）「合計」にはサービス種別不詳の方を含めています。

（５）訪問介護のサービス提供時間の内容別の内訳（予防給付・総合事業）

小多機・看多機・定期巡回では「その他の生活援助」がサービス提供時間の主たる内容となっている一方、その他の訪問系サービスでは、「身体介護」のほか、「掃除」の提供時間も多くなっていることがわかります。



（注１）総提供時間に占める各サービス提供時間の構成比を示しています。
（注２）「合計」にはサービス種別不詳の方を含めています。

２．調査結果の要旨

（１）資格保有状況はサービス系統によって差

サービス系統別の資格保有状況をみると、訪問系サービスで介護福祉士の保有率が 63.2%と最も高くなっており、専門性の高い人材の配置が進んでいます。

（２）職員数はわずかに増加も、人材の流動は限定的

介護職員数は全体としてわずかに増加（前年比＋0.7%）しているものの、過去１年間に職場を変えた職員（サンプル数 204）のうち、94 人（46.1%）は「以前は介護以外の職場で働いていた、または働いていなかった」層となっています。

また、訪問系（小多機・看多機含む）へ新たに就く職員も少なくなっています。

その他、前の職場が介護事業所であった職員については、同一市区町村内からの異動が 50.7%を占め、地域内での人材循環が中心となっています。

（３）訪問介護は「身体介護」中心も、サービス種別で提供内容に差

訪問介護のサービス提供時間の内容別内訳（介護給付）をみると、全体では「身体介護」の割合が 62.3%と最も高くなっています。ただし、小多機・看多機・定期巡回では 45.7%にとどまる一方、その他の訪問系サービスでは 69.2%と高く、サービス種別によって傾向に差がみられます。予防給付・総合事業でも、小多機・看多機・定期巡回では「その他生活援助」が主体となっているのに対し、その他の訪問系サービスでは「身体介護」の割合も高くなっています。

（４）総括

本調査からは、専門人材の配置状況やサービス提供内容がサービス系統によって異なる実態が明らかとなりました。今後は、地域内での人材循環を維持しつつ、訪問系サービスをはじめとする専門人材の確保・定着を図るとともに、サービス種別ごとの提供内容の特性を踏まえ、生活援助について地域資源との役割分担を検討することが、限られた人材で必要な介護サービスを持続的に提供するうえで重要になると考えられます。